

英語・英米文学科科目

科目名	英語音声の基礎【2013年度入学生】			担当教員	川浪亜弥子																		
対象学年	E1年	単位数・開講学期	1単位・後期	科目コード	E50004																		
概要	<p>〔キーワード： 〕</p> <p>英語によるコミュニケーションを円滑に行うには、英語の独特な音をきちんとキャッチする必要があります。この授業では、英語の独特な音の理解を目指すと共に、英語の独特なリズムにも触れます。</p>																						
到達目標	英語の音やリズムに馴れ親しむことを目指します。																						
授業の内容	<table border="0"> <tr> <td>1.At the Airport 母音(1)</td> <td>10.At a Department Store 子音(6)</td> </tr> <tr> <td>2.On the Campus Tour 母音(2)</td> <td>11.At a Beauty Salon 子音(7)</td> </tr> <tr> <td>3.At a Welcome Party 母音(3)</td> <td>12.At a Farewell Party 子音(8)</td> </tr> <tr> <td>4.At the Host Family's Home 母音(4)</td> <td>13.英語のリズム(1)</td> </tr> <tr> <td>5.At a Professor's Office 子音(1)</td> <td>14.英語のリズム(2)</td> </tr> <tr> <td>6.In the Library 子音(2)</td> <td>15.Terminal Exam</td> </tr> <tr> <td>7.In the Cafeteria 子音(3)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8.At a Health Clinic 子音(4)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9.Over the Phone 子音(5)</td> <td></td> </tr> </table>					1.At the Airport 母音(1)	10.At a Department Store 子音(6)	2.On the Campus Tour 母音(2)	11.At a Beauty Salon 子音(7)	3.At a Welcome Party 母音(3)	12.At a Farewell Party 子音(8)	4.At the Host Family's Home 母音(4)	13.英語のリズム(1)	5.At a Professor's Office 子音(1)	14.英語のリズム(2)	6.In the Library 子音(2)	15.Terminal Exam	7.In the Cafeteria 子音(3)		8.At a Health Clinic 子音(4)		9.Over the Phone 子音(5)	
1.At the Airport 母音(1)	10.At a Department Store 子音(6)																						
2.On the Campus Tour 母音(2)	11.At a Beauty Salon 子音(7)																						
3.At a Welcome Party 母音(3)	12.At a Farewell Party 子音(8)																						
4.At the Host Family's Home 母音(4)	13.英語のリズム(1)																						
5.At a Professor's Office 子音(1)	14.英語のリズム(2)																						
6.In the Library 子音(2)	15.Terminal Exam																						
7.In the Cafeteria 子音(3)																							
8.At a Health Clinic 子音(4)																							
9.Over the Phone 子音(5)																							
評価方法	出席・授業中のパフォーマンス 40%、試験 60%																						
教材・教科書	<i>Active Pronunciation</i> (Macmillan, 2012)																						
留意点																							

英語・英米文学科科目

科目名	専門基礎A			担当教員	川浪亜弥子
対象学年	E1年	単位数・開講学期	1単位・後期	科目コード	E50000
概要	<p>「英語音声の基礎【2013年度入学生】」を参照してください。</p>				
到達目標					
授業の内容					
評価方法					
教材・教科書					
留意点					

英語・英米文学科科目

科目名	英文法の基礎【2013年度入学生】			担当教員	佐藤幸正																		
対象学年	E1年	単位数・開講学期	1単位・前期	科目コード	E50005																		
概要	〔キーワード：準動詞〕 長文読解や英作文に対応するため、英文法のなかから準動詞に絞って詳しく学ぶ。																						
到達目標	分詞、動名詞及び不定詞の基礎を身につけ、その応用力を養う。																						
授業の内容	<table border="0"> <tr> <td>1. 分詞の限定用法とその位置</td> <td>10. 複合語としての動名詞、慣用表現</td> </tr> <tr> <td>2. 分詞の叙述用法：主格補語、目的格補語</td> <td>11. 不定詞の名詞用法、疑問詞＋不定詞</td> </tr> <tr> <td>3. 知覚動詞＋目的語＋分詞、have (get)＋目的語＋過去分詞</td> <td>12. 形容詞用法、副詞用法</td> </tr> <tr> <td>4. 分詞構文</td> <td>13. 独立不定詞、注意すべき用法</td> </tr> <tr> <td>5. 独立分詞構文、独立分詞構文の慣用表現</td> <td>14. 不定詞の意味上の主語、原形不定詞</td> </tr> <tr> <td>6. 動名詞の用法</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>7. 動名詞と不定詞：(1) 動名詞を目的語にとる動詞(2)不定詞を目的語にとる動詞</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8. (3)動名詞も不定詞も目的語にとる動詞(4)動名詞と不定詞では意味がことなる例</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9. 意味上の主語、完了形の動名詞</td> <td></td> </tr> </table>					1. 分詞の限定用法とその位置	10. 複合語としての動名詞、慣用表現	2. 分詞の叙述用法：主格補語、目的格補語	11. 不定詞の名詞用法、疑問詞＋不定詞	3. 知覚動詞＋目的語＋分詞、have (get)＋目的語＋過去分詞	12. 形容詞用法、副詞用法	4. 分詞構文	13. 独立不定詞、注意すべき用法	5. 独立分詞構文、独立分詞構文の慣用表現	14. 不定詞の意味上の主語、原形不定詞	6. 動名詞の用法	15. まとめ	7. 動名詞と不定詞：(1) 動名詞を目的語にとる動詞(2)不定詞を目的語にとる動詞		8. (3)動名詞も不定詞も目的語にとる動詞(4)動名詞と不定詞では意味がことなる例		9. 意味上の主語、完了形の動名詞	
1. 分詞の限定用法とその位置	10. 複合語としての動名詞、慣用表現																						
2. 分詞の叙述用法：主格補語、目的格補語	11. 不定詞の名詞用法、疑問詞＋不定詞																						
3. 知覚動詞＋目的語＋分詞、have (get)＋目的語＋過去分詞	12. 形容詞用法、副詞用法																						
4. 分詞構文	13. 独立不定詞、注意すべき用法																						
5. 独立分詞構文、独立分詞構文の慣用表現	14. 不定詞の意味上の主語、原形不定詞																						
6. 動名詞の用法	15. まとめ																						
7. 動名詞と不定詞：(1) 動名詞を目的語にとる動詞(2)不定詞を目的語にとる動詞																							
8. (3)動名詞も不定詞も目的語にとる動詞(4)動名詞と不定詞では意味がことなる例																							
9. 意味上の主語、完了形の動名詞																							
評価方法	出席点（20％）、テスト（80％）																						
教材・教科書	北山長貴・Margaret Yamada・福井慶一郎 著 <i>Mastering Basic English Grammar</i> (成美堂)																						
留意点	出席を重視																						

英語・英米文学科科目

科目名	専門基礎B			担当教員	佐藤幸正
対象学年	E1年	単位数・開講学期	1単位・前期	科目コード	E50002
概要	「英文法の基礎【2013年度入学生】」を参照してください。				
到達目標					
授業の内容					
評価方法					
教材・教科書					
留意点					

英語・英米文学科科目

科目名	英語学概論 A		担当教員	吉永直子																		
対象学年	E1年	単位数・開講学期	2単位・前期	科目コード E51000																		
概要	〔キーワード：英語学 音声学 音韻論〕 英語学概論では、英語を様々な観点から分析する方法の基礎を学ぶ。英語学概論 A では、英語の音声について学ぶ。																					
到達目標	音声学、音韻論の基礎を学ぶ。																					
授業の内容	<table border="0"> <tr> <td>1. 英語学について</td> <td>10. 音韻論：音韻過程 (3)</td> </tr> <tr> <td>2. 音声学：英語の子音 (1)</td> <td>11. 音韻論：音素 (1)</td> </tr> <tr> <td>3. 音声学：英語の子音 (2)</td> <td>12. 音韻論：音素 (2)</td> </tr> <tr> <td>4. 音声学：英語の母音 (1)</td> <td>13. 音韻論：音素分析の方法</td> </tr> <tr> <td>5. 音声学：英語の母音 (2)</td> <td>14. 音韻論：音素の配列</td> </tr> <tr> <td>6. 音声学：自然音類 (1)</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>7. 音声学：自然音類 (2)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8. 音韻論：音韻過程 (1)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9. 音韻論：音韻過程 (2)</td> <td></td> </tr> </table>				1. 英語学について	10. 音韻論：音韻過程 (3)	2. 音声学：英語の子音 (1)	11. 音韻論：音素 (1)	3. 音声学：英語の子音 (2)	12. 音韻論：音素 (2)	4. 音声学：英語の母音 (1)	13. 音韻論：音素分析の方法	5. 音声学：英語の母音 (2)	14. 音韻論：音素の配列	6. 音声学：自然音類 (1)	15. まとめ	7. 音声学：自然音類 (2)		8. 音韻論：音韻過程 (1)		9. 音韻論：音韻過程 (2)	
1. 英語学について	10. 音韻論：音韻過程 (3)																					
2. 音声学：英語の子音 (1)	11. 音韻論：音素 (1)																					
3. 音声学：英語の子音 (2)	12. 音韻論：音素 (2)																					
4. 音声学：英語の母音 (1)	13. 音韻論：音素分析の方法																					
5. 音声学：英語の母音 (2)	14. 音韻論：音素の配列																					
6. 音声学：自然音類 (1)	15. まとめ																					
7. 音声学：自然音類 (2)																						
8. 音韻論：音韻過程 (1)																						
9. 音韻論：音韻過程 (2)																						
評価方法	試験 80%、提出物 20%																					
教材・教科書	オハイオ州立大学言語学科編 『ランゲージ・ファイル—英語学概論—』 笈壽雄、西光義弘、嶋村誠 編訳 研究社																					
留意点																						

英語・英米文学科科目

科目名	英語学概論 B		担当教員	吉永直子																		
対象学年	E1年	単位数・開講学期	2単位・後期	科目コード E51001																		
概要	〔キーワード：英語学 形態論 統語論 意味論〕 英語学概論では、英語を様々な観点から分析する方法の基礎を学ぶ。英語学概論 B では、英語の語、文、意味について学ぶ。																					
到達目標	形態論、統語論、意味論の基礎を学ぶ。																					
授業の内容	<table border="0"> <tr> <td>1. 英語学について</td> <td>10. 統語論：語順と構成素構造 (2)</td> </tr> <tr> <td>2. 形態論：形態素 (1)</td> <td>11. 統語論：句構造規則</td> </tr> <tr> <td>3. 形態論：形態素 (2)</td> <td>12. 統語論：変形</td> </tr> <tr> <td>4. 形態論：形態素 (3)</td> <td>13. 意味論：意味とは</td> </tr> <tr> <td>5. 形態論：語形成 (1)</td> <td>14. 意味論：意味関係</td> </tr> <tr> <td>6. 形態論：語形成 (2)</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>7. 形態論：語形成 (3)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8. 統語論：基本概念</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9. 統語論：語順と構成素構造 (1)</td> <td></td> </tr> </table>				1. 英語学について	10. 統語論：語順と構成素構造 (2)	2. 形態論：形態素 (1)	11. 統語論：句構造規則	3. 形態論：形態素 (2)	12. 統語論：変形	4. 形態論：形態素 (3)	13. 意味論：意味とは	5. 形態論：語形成 (1)	14. 意味論：意味関係	6. 形態論：語形成 (2)	15. まとめ	7. 形態論：語形成 (3)		8. 統語論：基本概念		9. 統語論：語順と構成素構造 (1)	
1. 英語学について	10. 統語論：語順と構成素構造 (2)																					
2. 形態論：形態素 (1)	11. 統語論：句構造規則																					
3. 形態論：形態素 (2)	12. 統語論：変形																					
4. 形態論：形態素 (3)	13. 意味論：意味とは																					
5. 形態論：語形成 (1)	14. 意味論：意味関係																					
6. 形態論：語形成 (2)	15. まとめ																					
7. 形態論：語形成 (3)																						
8. 統語論：基本概念																						
9. 統語論：語順と構成素構造 (1)																						
評価方法	試験 80%、提出物 20%																					
教材・教科書	オハイオ州立大学言語学科編 『ランゲージ・ファイル—英語学概論—』 笈壽雄、西光義弘、嶋村誠 編訳 研究社																					
留意点																						

英語・英米文学科科目

科目名	英語史 A		担当教員	川浪亜弥子														
対象学年	E2年	単位数・開講学期	2単位・前期	科目コード E51002														
概要	<p>[キーワード：英語のルーツ、英語形成の歴史]</p> <p>英語を身につけたいと思うとき、そのルーツや成立形成についての興味が湧いてきませんか。そして英語はどのようにして世界の共通語となったのでしょうか。この授業では、英語を大きく Old English, Middle English, Modern English, Present English に分け、それぞれの形成過程を見ていきます。時には、古い英語で書かれたものと現代の英語で書かれたものを比較しながら、皆さんと一緒に英語の変化の歴史を考えたいと思います。また、イギリス英語とアメリカ英語の違いにも詳しく触れる予定です。</p>																	
到達目標	英語の歴史に触れることで、国際語としての英語に対する理解をより深めることです。																	
授業の内容	<table border="0"> <tr> <td>1. Introduction</td> <td>8. Modern English</td> </tr> <tr> <td>2. 世界の語族・世界の祖語</td> <td>9. Modern English 10. Shakespeare の英語</td> </tr> <tr> <td>3. Old English 以前のイギリスの英語</td> <td>11. Shakespeare の英語</td> </tr> <tr> <td>4. Old English</td> <td>12. Shakespeare の英語</td> </tr> <tr> <td>5. Old English</td> <td>13. American English と British English</td> </tr> <tr> <td>6. Middle English</td> <td>14. American English と British English</td> </tr> <tr> <td>7. Middle English</td> <td>15. まとめ</td> </tr> </table>				1. Introduction	8. Modern English	2. 世界の語族・世界の祖語	9. Modern English 10. Shakespeare の英語	3. Old English 以前のイギリスの英語	11. Shakespeare の英語	4. Old English	12. Shakespeare の英語	5. Old English	13. American English と British English	6. Middle English	14. American English と British English	7. Middle English	15. まとめ
1. Introduction	8. Modern English																	
2. 世界の語族・世界の祖語	9. Modern English 10. Shakespeare の英語																	
3. Old English 以前のイギリスの英語	11. Shakespeare の英語																	
4. Old English	12. Shakespeare の英語																	
5. Old English	13. American English と British English																	
6. Middle English	14. American English と British English																	
7. Middle English	15. まとめ																	
評価方法	出席 25%、授業中のパフォーマンス 15%、テスト 60%																	
教材・教科書	配布プリント																	
留意点	授業の進め方については初回に詳述するので必ず出席して下さい。																	

英語・英米文学科科目

科目名	英文法 A		担当教員	木村宣美																
対象学年	E2年	単位数・開講学期	2単位・前期	科目コード E51004																
概要	<p>[キーワード：文・品詞・準動詞]</p> <p>・英語学の研究成果を取り入れて、英文法の基礎知識を体系的に学習することを意図したテキストを活用して、英文法を学びます。</p> <p>・教科書の練習問題の解説・解答を中心に授業を進めます。なお、練習問題に取り組むうえで、そのユニットで取り上げられている文法項目の説明を予め読んでおくことが前提です。</p>																			
到達目標	英語の運用能力の基礎となる英文法の基礎知識を習得する。																			
授業の内容	<table border="0"> <tr> <td>1. 導入</td> <td>9. 形容詞</td> </tr> <tr> <td>2. 文, 主部</td> <td>10. 冠詞, 副詞</td> </tr> <tr> <td>3. 文型, 述語動詞I</td> <td>11. 動詞, 助動詞</td> </tr> <tr> <td>4. 述語動詞II</td> <td>12. 接続詞, 前置詞</td> </tr> <tr> <td>5. 文の種類</td> <td>13. 不定詞</td> </tr> <tr> <td>6. 8品詞, 名詞</td> <td>14. 分詞, 動名詞</td> </tr> <tr> <td>7. 代名詞</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. まとめ</td> <td></td> </tr> </table>				1. 導入	9. 形容詞	2. 文, 主部	10. 冠詞, 副詞	3. 文型, 述語動詞I	11. 動詞, 助動詞	4. 述語動詞II	12. 接続詞, 前置詞	5. 文の種類	13. 不定詞	6. 8品詞, 名詞	14. 分詞, 動名詞	7. 代名詞	15. まとめ	8. まとめ	
1. 導入	9. 形容詞																			
2. 文, 主部	10. 冠詞, 副詞																			
3. 文型, 述語動詞I	11. 動詞, 助動詞																			
4. 述語動詞II	12. 接続詞, 前置詞																			
5. 文の種類	13. 不定詞																			
6. 8品詞, 名詞	14. 分詞, 動名詞																			
7. 代名詞	15. まとめ																			
8. まとめ																				
評価方法	平常評価(出席状況を含む。)[20%]と中間評価(試験)[40%]・期末評価(試験)[40%]の結果を総合して、評価します。																			
教材・教科書	A Shorter Guide to English Grammar 安井稔著 1985年 開拓社																			
留意点	予習をして授業に臨んでください。英文法のどこがよくわからないのかを明確にして、受講してください。英語力の向上につながるはずです。																			

英語・英米文学科科目

科目名	英文法 B		担当教員	木村宣美																
対象学年	E2年	単位数・開講学期	2単位・後期	科目コード E51005																
概要	<p>[キーワード：関係詞・構文・修飾語句・情報構造]</p> <p>・英語学の研究成果を取り入れて、英文法の基礎知識を体系的に学習することを意図したテキストを活用して、英文法を学びます。</p> <p>・教科書の練習問題の解説・解答を中心に授業を進めます。なお、練習問題に取り組むうえで、そのユニットで取り上げられている文法項目の説明を予め読んでおくことが前提です。</p>																			
到達目標	英語の運用能力の基礎となる英文法の基礎知識を習得する。																			
授業の内容	<table border="0"> <tr> <td>1. 関係代名詞, 関係副詞</td> <td>9. 注意すべき主語</td> </tr> <tr> <td>2. 時制</td> <td>10. 名詞・形容詞を中心とする構文</td> </tr> <tr> <td>3. 態</td> <td>11. 形容詞的修飾語句</td> </tr> <tr> <td>4. 呼応と時制の一致</td> <td>12. 副詞的修飾語句</td> </tr> <tr> <td>5. 仮定法, 話法</td> <td>13. 文の主題と情報構造</td> </tr> <tr> <td>6. 比較</td> <td>14. 強調, 省略・挿入</td> </tr> <tr> <td>7. まとめ</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 否定</td> <td></td> </tr> </table>				1. 関係代名詞, 関係副詞	9. 注意すべき主語	2. 時制	10. 名詞・形容詞を中心とする構文	3. 態	11. 形容詞的修飾語句	4. 呼応と時制の一致	12. 副詞的修飾語句	5. 仮定法, 話法	13. 文の主題と情報構造	6. 比較	14. 強調, 省略・挿入	7. まとめ	15. まとめ	8. 否定	
1. 関係代名詞, 関係副詞	9. 注意すべき主語																			
2. 時制	10. 名詞・形容詞を中心とする構文																			
3. 態	11. 形容詞的修飾語句																			
4. 呼応と時制の一致	12. 副詞的修飾語句																			
5. 仮定法, 話法	13. 文の主題と情報構造																			
6. 比較	14. 強調, 省略・挿入																			
7. まとめ	15. まとめ																			
8. 否定																				
評価方法	平常評価(出席状況を含む。)[20%]・中間評価(試験)[40%]・期末評価(試験)[40%]の結果を総合して、評価します。																			
教材・教科書	A Shorter Guide to English Grammar 安井稔著 1985年 開拓社																			
留意点	予習をして授業に臨んでください。英文法のどこがよくわからないのかを明確にして、受講してください。英語力の向上につながるはずです。																			

英語・英米文学科科目

科目名	統語論 A		担当教員	吉永直子																		
対象学年	E2年	単位数・開講学期	2単位・前期	科目コード E51008																		
概要	<p>[キーワード：英語 文構造]</p> <p>受動文、自動詞、代名詞・再帰代名詞にかかわる英語の現象を考察し、それらに関する理論を理解する。</p>																					
到達目標	英語の文構造の分析を通し統語論の基礎を学ぶ。																					
授業の内容	<table border="0"> <tr> <td>1. 統語論について</td> <td>10. 自動詞 (2)</td> </tr> <tr> <td>2. 句構造 (1)</td> <td>11. 自動詞 (3)</td> </tr> <tr> <td>3. 句構造 (2)</td> <td>12. 代名詞・再帰代名詞 (1)</td> </tr> <tr> <td>4. 句構造 (3)</td> <td>13. 代名詞・再帰代名詞 (2)</td> </tr> <tr> <td>5. 受動文 (1)</td> <td>14. 代名詞・再帰代名詞 (3)</td> </tr> <tr> <td>6. 受動文 (2)</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>7. 受動文 (3)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8. 受動文 (4)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9. 自動詞 (1)</td> <td></td> </tr> </table>				1. 統語論について	10. 自動詞 (2)	2. 句構造 (1)	11. 自動詞 (3)	3. 句構造 (2)	12. 代名詞・再帰代名詞 (1)	4. 句構造 (3)	13. 代名詞・再帰代名詞 (2)	5. 受動文 (1)	14. 代名詞・再帰代名詞 (3)	6. 受動文 (2)	15. まとめ	7. 受動文 (3)		8. 受動文 (4)		9. 自動詞 (1)	
1. 統語論について	10. 自動詞 (2)																					
2. 句構造 (1)	11. 自動詞 (3)																					
3. 句構造 (2)	12. 代名詞・再帰代名詞 (1)																					
4. 句構造 (3)	13. 代名詞・再帰代名詞 (2)																					
5. 受動文 (1)	14. 代名詞・再帰代名詞 (3)																					
6. 受動文 (2)	15. まとめ																					
7. 受動文 (3)																						
8. 受動文 (4)																						
9. 自動詞 (1)																						
評価方法	試験 60%、課題 20%、出席 20%																					
教材・教科書	『生成文法』 渡辺明																					
留意点																						

英語・英米文学科科目

科目名	統語論 B		担当教員	吉永直子																		
対象学年	E2年	単位数・開講学期	2単位・後期	科目コード E51009																		
概要	〔キーワード：英語 文構造〕 不定詞節、疑問文、関係節にかかわる英語の現象を考察し、それらに関する理論を理解する。																					
到達目標	英語の文構造の分析を通し統語論の基礎を学ぶ。																					
授業の内容	<table border="0"> <tr> <td>1. 統語論について</td> <td>10. 疑問文 (4)</td> </tr> <tr> <td>2. 句構造</td> <td>11. 関係節 (1)</td> </tr> <tr> <td>3. 不定詞節 (1)</td> <td>12. 関係節 (2)</td> </tr> <tr> <td>4. 不定詞節 (2)</td> <td>13. 関係節 (3)</td> </tr> <tr> <td>5. 不定詞節 (3)</td> <td>14. 関係節 (4)</td> </tr> <tr> <td>6. 不定詞節 (4)</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>7. 疑問文 (1)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8. 疑問文 (2)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9. 疑問文 (3)</td> <td></td> </tr> </table>				1. 統語論について	10. 疑問文 (4)	2. 句構造	11. 関係節 (1)	3. 不定詞節 (1)	12. 関係節 (2)	4. 不定詞節 (2)	13. 関係節 (3)	5. 不定詞節 (3)	14. 関係節 (4)	6. 不定詞節 (4)	15. まとめ	7. 疑問文 (1)		8. 疑問文 (2)		9. 疑問文 (3)	
1. 統語論について	10. 疑問文 (4)																					
2. 句構造	11. 関係節 (1)																					
3. 不定詞節 (1)	12. 関係節 (2)																					
4. 不定詞節 (2)	13. 関係節 (3)																					
5. 不定詞節 (3)	14. 関係節 (4)																					
6. 不定詞節 (4)	15. まとめ																					
7. 疑問文 (1)																						
8. 疑問文 (2)																						
9. 疑問文 (3)																						
評価方法	試験 60%、課題 20%、出席 20%																					
教材・教科書	『生成文法』 渡辺明																					
留意点																						

英語・英米文学科科目

科目名	意味論 A		担当教員	藤森千博																
対象学年	E2年	単位数・開講学期	2単位・前期	科目コード E51010																
概要	〔キーワード：結果構文〕英語結果構文に関する論文を精読することで言語学における実際の議論を体験しながら意味に関する重要な概念や考え方を理解する。																			
到達目標	(1) 言語学に関する英文文献を精読する力を養成する (2) 具体的な言語現象（結果構文）の様相とその議論の過程を理解する (3) 論文中で議論される意味に関する研究を理解する																			
授業の内容	<table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクション</td> <td>9. Takami(1998) -1</td> </tr> <tr> <td>2. Levin & Rappaport (1995) -1</td> <td>10. Takami (1998) -2</td> </tr> <tr> <td>3. Levin & Rappaport (1995) -2</td> <td>11. Takami (1998) -3</td> </tr> <tr> <td>4. Levin & Rappaport (1995) -3</td> <td>12. Takami (1998) -4</td> </tr> <tr> <td>5. Levin & Rappaport (1995) -4</td> <td>13. Takami (1998) -5</td> </tr> <tr> <td>6. Levin & Rappaport (1995) -5</td> <td>14. Takami (1998) -6</td> </tr> <tr> <td>7. Levin & Rappaport (1995) -6</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 中間まとめ</td> <td></td> </tr> </table>				1. イントロダクション	9. Takami(1998) -1	2. Levin & Rappaport (1995) -1	10. Takami (1998) -2	3. Levin & Rappaport (1995) -2	11. Takami (1998) -3	4. Levin & Rappaport (1995) -3	12. Takami (1998) -4	5. Levin & Rappaport (1995) -4	13. Takami (1998) -5	6. Levin & Rappaport (1995) -5	14. Takami (1998) -6	7. Levin & Rappaport (1995) -6	15. まとめ	8. 中間まとめ	
1. イントロダクション	9. Takami(1998) -1																			
2. Levin & Rappaport (1995) -1	10. Takami (1998) -2																			
3. Levin & Rappaport (1995) -2	11. Takami (1998) -3																			
4. Levin & Rappaport (1995) -3	12. Takami (1998) -4																			
5. Levin & Rappaport (1995) -4	13. Takami (1998) -5																			
6. Levin & Rappaport (1995) -5	14. Takami (1998) -6																			
7. Levin & Rappaport (1995) -6	15. まとめ																			
8. 中間まとめ																				
評価方法	(1) 履修者には論文を分担して翻訳及び解説を担当してもらう（その際ハンドアウトを作成してもらう）。この作業を評価の20%とするとともに、この授業で単位を取得するための必要条件とする。 (2) 中間試験（40%）、期末試験（40%）																			
教材・教科書	適宜プリントとして配布する。																			
留意点	<ul style="list-style-type: none"> 評価方法（1）に示すように、論文の分担をせずに中間試験及び期末試験のみ受験しても単位を認めない。また、担当予定日に理由なく欠席したりハンドアウトの準備ができていないなどの場合はその時点で単位を認めない。 担当箇所のみで議論全体を理解することは絶対にできないので、担当箇所以外も必ず精読し内容を理解した上で（分からないところを明確にした上で）授業に臨むこと。 意味論と統語論のインターフェイスを扱うため、授業中にも解説を行う予定だが、統語論の基礎的知識を並行して学習しておいて欲しい。 																			

英語・英米文学科科目

科目名	意味論 B		担当教員	藤森千博																
対象学年	E2年	単位数・開講学期	2単位・後期	科目コード E51011																
概要	〔キーワード：主格目的語〕日本語主格目的語構文に関する論文を精読することで言語学における実際の議論を体験しながら意味に関する重要な概念や考え方を理解する。																			
到達目標	(1) 言語学に関する英文文献を精読する力を養成する (2) 具体的な言語現象（主格目的語）の様相とその議論の過程を理解する (3) 論文中で議論される意味に関する研究を理解する																			
授業の内容	<table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクション</td> <td>9. Takahashi (2010)-1</td> </tr> <tr> <td>2. Koizumi (2008)-1</td> <td>10. Takahashi (2010)-2</td> </tr> <tr> <td>3. Koizumi (2008)-2</td> <td>11. Takahashi (2010)-3</td> </tr> <tr> <td>4. Koizumi (2008)-3</td> <td>12. Takahashi (2010)-4</td> </tr> <tr> <td>5. Koizumi (2008)-4</td> <td>13. Takahashi (2010)-5</td> </tr> <tr> <td>6. Koizumi (2008)-5</td> <td>14. Takahashi (2010)-6</td> </tr> <tr> <td>7. Koizumi (2008)-6</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 中間まとめ</td> <td></td> </tr> </table>				1. イントロダクション	9. Takahashi (2010)-1	2. Koizumi (2008)-1	10. Takahashi (2010)-2	3. Koizumi (2008)-2	11. Takahashi (2010)-3	4. Koizumi (2008)-3	12. Takahashi (2010)-4	5. Koizumi (2008)-4	13. Takahashi (2010)-5	6. Koizumi (2008)-5	14. Takahashi (2010)-6	7. Koizumi (2008)-6	15. まとめ	8. 中間まとめ	
1. イントロダクション	9. Takahashi (2010)-1																			
2. Koizumi (2008)-1	10. Takahashi (2010)-2																			
3. Koizumi (2008)-2	11. Takahashi (2010)-3																			
4. Koizumi (2008)-3	12. Takahashi (2010)-4																			
5. Koizumi (2008)-4	13. Takahashi (2010)-5																			
6. Koizumi (2008)-5	14. Takahashi (2010)-6																			
7. Koizumi (2008)-6	15. まとめ																			
8. 中間まとめ																				
評価方法	(1) 履修者には論文を分担して翻訳及び解説を担当してもらう（その際ハンドアウトを作成してもらう）。この作業を評価の20%とするとともに、この授業で単位を取得するための必要条件とする。 (2) 中間試験（40%）、期末試験（40%）																			
教材・教科書	適宜プリントとして配布する。																			
留意点	<ul style="list-style-type: none"> 評価方法（1）に示すように、論文の分担をせずに中間試験及び期末試験のみ受験しても単位を認めない。また、担当予定日に理由なく欠席したりハンドアウトの準備ができていないなどの場合はその時点で単位を認めない。 担当箇所のみで議論全体を理解することは絶対にできないので、担当箇所以外も必ず精読し内容を理解した上で（分からないところを明確にした上で）授業に臨むこと。 意味論と統語論のインターフェイスを扱うため、授業中にも解説を行う予定だが、統語論の基礎的知識を並行して学習しておいて欲しい。 																			

英語・英米文学科科目

科目名	言語習得 A		担当教員	吉永直子																		
対象学年	E2年	単位数・開講学期	2単位・前期	科目コード E51012																		
概要	〔キーワード：母語習得 第一言語習得 〕 ヒトは母語をどのように習得するのかということについて考察する。																					
到達目標	母語習得についてどのようなことが研究されているか理解する。																					
授業の内容	<table border="0"> <tr> <td>1. オリエンテーション</td> <td>10. 言語入力 (2)</td> </tr> <tr> <td>2. 母語獲得</td> <td>11. 言語入力 (3)</td> </tr> <tr> <td>3. 言語音の知覚、音韻の習得</td> <td>12. 言語獲得理論 (1)</td> </tr> <tr> <td>4. 語の習得 (1)</td> <td>13. 言語獲得理論 (2)</td> </tr> <tr> <td>5. 語の習得 (2)</td> <td>14. 言語獲得理論 (3)</td> </tr> <tr> <td>6. 文の習得 (1)</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>7. 文の習得 (2)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8. 文の習得 (3)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9. 言語入力 (1)</td> <td></td> </tr> </table>				1. オリエンテーション	10. 言語入力 (2)	2. 母語獲得	11. 言語入力 (3)	3. 言語音の知覚、音韻の習得	12. 言語獲得理論 (1)	4. 語の習得 (1)	13. 言語獲得理論 (2)	5. 語の習得 (2)	14. 言語獲得理論 (3)	6. 文の習得 (1)	15. まとめ	7. 文の習得 (2)		8. 文の習得 (3)		9. 言語入力 (1)	
1. オリエンテーション	10. 言語入力 (2)																					
2. 母語獲得	11. 言語入力 (3)																					
3. 言語音の知覚、音韻の習得	12. 言語獲得理論 (1)																					
4. 語の習得 (1)	13. 言語獲得理論 (2)																					
5. 語の習得 (2)	14. 言語獲得理論 (3)																					
6. 文の習得 (1)	15. まとめ																					
7. 文の習得 (2)																						
8. 文の習得 (3)																						
9. 言語入力 (1)																						
評価方法	試験 30%、レポート 30%、課題 20%、出席 20%																					
教材・教科書	『ことばの習得—母語獲得と第二言語習得—』 くろしお出版																					
留意点																						

英語・英米文学科科目

科目名	言語習得 B			担当教員	吉永直子																		
対象学年	E2年	単位数・開講学期	2単位・後期	科目コード	E51013																		
概要	[キーワード：第二言語習得] ヒトが母語以外の言語をどのように習得するのかということについて考察する。																						
到達目標	第二言語習得についてどのようなことが研究されているのか理解する。																						
授業の内容	<table border="0"> <tr> <td>1. オリエンテーション</td> <td>10. 第二言語習得にかかわる要因 (2)</td> </tr> <tr> <td>2. 第二言語習得</td> <td>11. 第二言語習得にかかわる要因 (3)</td> </tr> <tr> <td>3. 第二言語学習者の言語 (1)</td> <td>12. 教室における第二言語習得 (1)</td> </tr> <tr> <td>4. 第二言語学習者の言語 (2)</td> <td>13. 教室における第二言語習得 (2)</td> </tr> <tr> <td>5. 第二言語学習者の言語 (3)</td> <td>14. 教室における第二言語習得 (3)</td> </tr> <tr> <td>6. 第二言語習得における普遍文法 (1)</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>7. 第二言語習得における普遍文法 (2)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8. 第二言語習得における普遍文法 (3)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9. 第二言語習得にかかわる要因 (1)</td> <td></td> </tr> </table>					1. オリエンテーション	10. 第二言語習得にかかわる要因 (2)	2. 第二言語習得	11. 第二言語習得にかかわる要因 (3)	3. 第二言語学習者の言語 (1)	12. 教室における第二言語習得 (1)	4. 第二言語学習者の言語 (2)	13. 教室における第二言語習得 (2)	5. 第二言語学習者の言語 (3)	14. 教室における第二言語習得 (3)	6. 第二言語習得における普遍文法 (1)	15. まとめ	7. 第二言語習得における普遍文法 (2)		8. 第二言語習得における普遍文法 (3)		9. 第二言語習得にかかわる要因 (1)	
1. オリエンテーション	10. 第二言語習得にかかわる要因 (2)																						
2. 第二言語習得	11. 第二言語習得にかかわる要因 (3)																						
3. 第二言語学習者の言語 (1)	12. 教室における第二言語習得 (1)																						
4. 第二言語学習者の言語 (2)	13. 教室における第二言語習得 (2)																						
5. 第二言語学習者の言語 (3)	14. 教室における第二言語習得 (3)																						
6. 第二言語習得における普遍文法 (1)	15. まとめ																						
7. 第二言語習得における普遍文法 (2)																							
8. 第二言語習得における普遍文法 (3)																							
9. 第二言語習得にかかわる要因 (1)																							
評価方法	試験 30%、レポート 30%、課題 20%、出席 20%																						
教材・教科書	『ことばの習得-母語獲得と第二言語習得-』 くろしお出版																						
留意点																							

英語・英米文学科科目

科目名	英語学演習 IC			担当教員	吉永直子																		
対象学年	E3年	単位数・開講学期	2単位・前期	科目コード	E51016																		
概要	[キーワード：第二言語習得] 第二言語習得の研究論文を読むことを通して、第二言語習得研究についてどのようなことがどのような方法で研究されているかを学ぶ。																						
到達目標	第二言語習得の研究、特に統語理論との関係における実証的な研究について理解し、その方法を学ぶ。																						
授業の内容	<table border="0"> <tr> <td>1. オリエンテーション</td> <td>10. 研究論文 2 に関する説明</td> </tr> <tr> <td>2. 言語習得研究の基礎 (1)</td> <td>11. 研究論文 2 (1)</td> </tr> <tr> <td>3. 言語習得研究の基礎 (2)</td> <td>12. 研究論文 2 (2)</td> </tr> <tr> <td>4. 言語習得研究の基礎 (3)</td> <td>13. 研究論文 2 (3)</td> </tr> <tr> <td>5. 研究論文 1 に関する説明</td> <td>14. 研究論文 2 (4)</td> </tr> <tr> <td>6. 研究論文 1 (1)</td> <td>15. レポート</td> </tr> <tr> <td>7. 研究論文 1 (2)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8. 研究論文 1 (3)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9. 研究論文 1 (4)</td> <td></td> </tr> </table>					1. オリエンテーション	10. 研究論文 2 に関する説明	2. 言語習得研究の基礎 (1)	11. 研究論文 2 (1)	3. 言語習得研究の基礎 (2)	12. 研究論文 2 (2)	4. 言語習得研究の基礎 (3)	13. 研究論文 2 (3)	5. 研究論文 1 に関する説明	14. 研究論文 2 (4)	6. 研究論文 1 (1)	15. レポート	7. 研究論文 1 (2)		8. 研究論文 1 (3)		9. 研究論文 1 (4)	
1. オリエンテーション	10. 研究論文 2 に関する説明																						
2. 言語習得研究の基礎 (1)	11. 研究論文 2 (1)																						
3. 言語習得研究の基礎 (2)	12. 研究論文 2 (2)																						
4. 言語習得研究の基礎 (3)	13. 研究論文 2 (3)																						
5. 研究論文 1 に関する説明	14. 研究論文 2 (4)																						
6. 研究論文 1 (1)	15. レポート																						
7. 研究論文 1 (2)																							
8. 研究論文 1 (3)																							
9. 研究論文 1 (4)																							
評価方法	発表 20%、レポートと課題 60%、出席 20%																						
教材・教科書	授業開始後、授業で読む研究論文の候補となるものを提示し、受講生の興味に応じて決定する。																						
留意点																							

英語・英米文学科科目

科目名	英語学演習ⅠD			担当教員	吉永直子																		
対象学年	E3年	単位数・開講学期	2単位・後期	科目コード	E51017																		
概要	〔キーワード：第二言語習得〕 第二言語習得研究について、自らテーマを選んで実証的に調査する具体的な方法を考える。																						
到達目標	第二言語習得の研究、特に統語理論との関係における実証的な研究について理解し、その方法を学ぶ。																						
授業の内容	<table border="0"> <tr> <td>1. オリエンテーション</td> <td>10. 発表2(1)</td> </tr> <tr> <td>2. リサーチについて(1)</td> <td>11. 発表2(2)</td> </tr> <tr> <td>3. リサーチについて(2)</td> <td>12. 発表2(3)</td> </tr> <tr> <td>4. リサーチについて(3)</td> <td>13. レポートについて</td> </tr> <tr> <td>5. テーマの報告</td> <td>14. 発表3(1)</td> </tr> <tr> <td>6. 発表1(1)</td> <td>15. 発表3(2)</td> </tr> <tr> <td>7. 発表1(2)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8. 発表1(3)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9. リサーチについて(4)</td> <td></td> </tr> </table>					1. オリエンテーション	10. 発表2(1)	2. リサーチについて(1)	11. 発表2(2)	3. リサーチについて(2)	12. 発表2(3)	4. リサーチについて(3)	13. レポートについて	5. テーマの報告	14. 発表3(1)	6. 発表1(1)	15. 発表3(2)	7. 発表1(2)		8. 発表1(3)		9. リサーチについて(4)	
1. オリエンテーション	10. 発表2(1)																						
2. リサーチについて(1)	11. 発表2(2)																						
3. リサーチについて(2)	12. 発表2(3)																						
4. リサーチについて(3)	13. レポートについて																						
5. テーマの報告	14. 発表3(1)																						
6. 発表1(1)	15. 発表3(2)																						
7. 発表1(2)																							
8. 発表1(3)																							
9. リサーチについて(4)																							
評価方法	発表20%、レポート60%、出席20%																						
教材・教科書																							
留意点																							

英語・英米文学科科目

科目名	英語学演習ⅡC			担当教員	吉永直子																		
対象学年	E4年	単位数・開講学期	2単位・前期	科目コード	E51020																		
概要	〔キーワード：第二言語習得〕 第二言語習得研究の方法を学ぶ。各自テーマを決め、そのテーマに関する先行研究をまとめ、検証可能な研究課題、仮説をたてる。発表を中心に進める																						
到達目標	第二言語習得の研究とその周辺領域における研究について理解を深め、自らの研究テーマにそって調査研究する方法を身に付ける。																						
授業の内容	<table border="0"> <tr> <td>1. オリエンテーション</td> <td>10. 発表3(1)</td> </tr> <tr> <td>2. リサーチの方法(1)</td> <td>11. 発表3(2)</td> </tr> <tr> <td>3. リサーチの方法(2)</td> <td>12. 発表3(3)</td> </tr> <tr> <td>4. 発表1(1)</td> <td>13. レポートについて</td> </tr> <tr> <td>5. 発表1(2)</td> <td>14. 発表4(1)</td> </tr> <tr> <td>6. 発表1(3)</td> <td>15. 発表4(2)</td> </tr> <tr> <td>7. 発表2(1)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8. 発表2(2)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9. 発表2(3)</td> <td></td> </tr> </table>					1. オリエンテーション	10. 発表3(1)	2. リサーチの方法(1)	11. 発表3(2)	3. リサーチの方法(2)	12. 発表3(3)	4. 発表1(1)	13. レポートについて	5. 発表1(2)	14. 発表4(1)	6. 発表1(3)	15. 発表4(2)	7. 発表2(1)		8. 発表2(2)		9. 発表2(3)	
1. オリエンテーション	10. 発表3(1)																						
2. リサーチの方法(1)	11. 発表3(2)																						
3. リサーチの方法(2)	12. 発表3(3)																						
4. 発表1(1)	13. レポートについて																						
5. 発表1(2)	14. 発表4(1)																						
6. 発表1(3)	15. 発表4(2)																						
7. 発表2(1)																							
8. 発表2(2)																							
9. 発表2(3)																							
評価方法	発表20%、レポート60%、出席20%																						
教材・教科書																							
留意点																							

英語・英米文学科科目

科目名	英語学演習ⅡD		担当教員	吉永直子																		
対象学年	E4年	単位数・開講学期	2単位・後期	科目コード																		
	E51021																					
概要	<p>[キーワード：第二言語習得]</p> <p>第二言語習得研究の方法を学ぶ。各自のテーマで、自らの研究課題に対する答えを導く。発表を中心に進める。</p>																					
到達目標	第二言語習得の研究とその周辺領域における研究について理解を深め、自らの研究テーマにそって調査研究する方法を身に付ける。																					
授業の内容	<table border="0"> <tr> <td>1. オリエンテーション</td> <td>10. 発表 2(2)</td> </tr> <tr> <td>2. リサーチについて</td> <td>11. 発表 2(3)</td> </tr> <tr> <td>3. 発表 1(1)</td> <td>12. レポートの形式</td> </tr> <tr> <td>4. 発表 1(2)</td> <td>13. 発表 4(1)</td> </tr> <tr> <td>5. 発表 1(3)</td> <td>14. 発表 4(2)</td> </tr> <tr> <td>6. 発表 2(1)</td> <td>15. 発表 4(3)</td> </tr> <tr> <td>7. 発表 2(2)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8. 発表 2(3)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9. 発表 3(1)</td> <td></td> </tr> </table>				1. オリエンテーション	10. 発表 2(2)	2. リサーチについて	11. 発表 2(3)	3. 発表 1(1)	12. レポートの形式	4. 発表 1(2)	13. 発表 4(1)	5. 発表 1(3)	14. 発表 4(2)	6. 発表 2(1)	15. 発表 4(3)	7. 発表 2(2)		8. 発表 2(3)		9. 発表 3(1)	
1. オリエンテーション	10. 発表 2(2)																					
2. リサーチについて	11. 発表 2(3)																					
3. 発表 1(1)	12. レポートの形式																					
4. 発表 1(2)	13. 発表 4(1)																					
5. 発表 1(3)	14. 発表 4(2)																					
6. 発表 2(1)	15. 発表 4(3)																					
7. 発表 2(2)																						
8. 発表 2(3)																						
9. 発表 3(1)																						
評価方法	発表 20%、レポート 60%、出席 20%																					
教材・教科書																						
留意点																						

英語・英米文学科科目

科目名	英米文学概論 A			担当教員	佐藤和博																		
対象学年	E1年	単位数・開講学期	2単位・前期	科目コード	E52022																		
概要	[キーワード: チョーサー、シェイクスピア]																						
	イギリス文学の主要な作品を原文で読む。 作品の背後にあるイギリスの文化について理解する。																						
到達目標	イギリス文学とはどういうものか理解を深める。 日本語に直してみることで、日本語のセンスを磨く。 辞書その他の参考図書の使い方に熟達する。																						
授業の内容	<table border="0"> <tr> <td>1. 英語の辞書について</td> <td>10. 『ロミオとジュリエット』を読む</td> </tr> <tr> <td>2. 『カンタベリー物語』の「プロローグ」を読む</td> <td>11. 『ロミオとジュリエット』を読む</td> </tr> <tr> <td>3. 『カンタベリー物語』の「プロローグ」を読む</td> <td>12. 『オセロ』を読む</td> </tr> <tr> <td>4. 『カンタベリー物語』の「赦罪状売りの話」を読む</td> <td>13. 『オセロ』を読む</td> </tr> <tr> <td>5. 『カンタベリー物語』の「赦罪状売りの話」を読む</td> <td>14. 『オセロ』を読む</td> </tr> <tr> <td>6. 『カンタベリー物語』の「赦罪状売りの話」を読む</td> <td>15. 『オセロ』を読む</td> </tr> <tr> <td>7. 『カンタベリー物語』の「赦罪状売りの話」を読む</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8. 『カンタベリー物語』の「赦罪状売りの話」を読む</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9. 『カンタベリー物語』の「赦罪状売りの話」を読む</td> <td></td> </tr> </table>					1. 英語の辞書について	10. 『ロミオとジュリエット』を読む	2. 『カンタベリー物語』の「プロローグ」を読む	11. 『ロミオとジュリエット』を読む	3. 『カンタベリー物語』の「プロローグ」を読む	12. 『オセロ』を読む	4. 『カンタベリー物語』の「赦罪状売りの話」を読む	13. 『オセロ』を読む	5. 『カンタベリー物語』の「赦罪状売りの話」を読む	14. 『オセロ』を読む	6. 『カンタベリー物語』の「赦罪状売りの話」を読む	15. 『オセロ』を読む	7. 『カンタベリー物語』の「赦罪状売りの話」を読む		8. 『カンタベリー物語』の「赦罪状売りの話」を読む		9. 『カンタベリー物語』の「赦罪状売りの話」を読む	
1. 英語の辞書について	10. 『ロミオとジュリエット』を読む																						
2. 『カンタベリー物語』の「プロローグ」を読む	11. 『ロミオとジュリエット』を読む																						
3. 『カンタベリー物語』の「プロローグ」を読む	12. 『オセロ』を読む																						
4. 『カンタベリー物語』の「赦罪状売りの話」を読む	13. 『オセロ』を読む																						
5. 『カンタベリー物語』の「赦罪状売りの話」を読む	14. 『オセロ』を読む																						
6. 『カンタベリー物語』の「赦罪状売りの話」を読む	15. 『オセロ』を読む																						
7. 『カンタベリー物語』の「赦罪状売りの話」を読む																							
8. 『カンタベリー物語』の「赦罪状売りの話」を読む																							
9. 『カンタベリー物語』の「赦罪状売りの話」を読む																							
評価方法	レポート (50%) 及び出席(50%)																						
教材・教科書	プリント使用																						
留意点																							

英語・英米文学科科目

科目名	英米文学概論 B			担当教員	佐藤和博																		
対象学年	E1年	単位数・開講学期	2単位・後期	科目コード	E52023																		
概要	[キーワード: ベーコン、デフォー、オースチン、ディケンズ]																						
	イギリス文学の主要な作品を原文で読む。 作品の背後にあるイギリスの文化について理解する。																						
到達目標	イギリス文学とはどういうものか理解を深める。 日本語に直してみることで、日本語のセンスを磨く。 辞書その他の参考図書の使い方に熟達する。																						
授業の内容	<table border="0"> <tr> <td>1. ベーコンの『エッセイ』を読む</td> <td>10. 『自負と偏見』を読む</td> </tr> <tr> <td>2. ベーコンの『エッセイ』を読む</td> <td>11. 『自負と偏見』を読む</td> </tr> <tr> <td>3. ベーコンの『エッセイ』を読む</td> <td>12. 『自負と偏見』を読む</td> </tr> <tr> <td>4. 英訳聖書、「放蕩息子の話」を読む</td> <td>13. 『オリバー・ツイスト』を読む</td> </tr> <tr> <td>5. 英訳聖書、「放蕩息子の話」を読む</td> <td>14. 『オリバー・ツイスト』を読む</td> </tr> <tr> <td>6. 英訳聖書、「放蕩息子の話」を読む</td> <td>15. 『オリバー・ツイスト』を読む</td> </tr> <tr> <td>7. 『ペスト』を読む</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8. 『ペスト』を読む</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9. 『ペスト』を読む</td> <td></td> </tr> </table>					1. ベーコンの『エッセイ』を読む	10. 『自負と偏見』を読む	2. ベーコンの『エッセイ』を読む	11. 『自負と偏見』を読む	3. ベーコンの『エッセイ』を読む	12. 『自負と偏見』を読む	4. 英訳聖書、「放蕩息子の話」を読む	13. 『オリバー・ツイスト』を読む	5. 英訳聖書、「放蕩息子の話」を読む	14. 『オリバー・ツイスト』を読む	6. 英訳聖書、「放蕩息子の話」を読む	15. 『オリバー・ツイスト』を読む	7. 『ペスト』を読む		8. 『ペスト』を読む		9. 『ペスト』を読む	
1. ベーコンの『エッセイ』を読む	10. 『自負と偏見』を読む																						
2. ベーコンの『エッセイ』を読む	11. 『自負と偏見』を読む																						
3. ベーコンの『エッセイ』を読む	12. 『自負と偏見』を読む																						
4. 英訳聖書、「放蕩息子の話」を読む	13. 『オリバー・ツイスト』を読む																						
5. 英訳聖書、「放蕩息子の話」を読む	14. 『オリバー・ツイスト』を読む																						
6. 英訳聖書、「放蕩息子の話」を読む	15. 『オリバー・ツイスト』を読む																						
7. 『ペスト』を読む																							
8. 『ペスト』を読む																							
9. 『ペスト』を読む																							
評価方法	レポート (50%) 及び出席(50%)																						
教材・教科書	プリント使用																						
留意点																							

英語・英米文学科科目

科目名	英詩概論A			担当教員	佐藤 豊																		
対象学年	E1年	単位数・開講学期	2単位・前期	科目コード	E52024																		
概要	[キーワード] 詩とは何か、また詩をどう読むかなどを考えさせる入門書を読みながら、英詩を理解してもらいたいと思います。																						
到達目標	英詩の入門的な概論を英語で書かれたテキストを読みつつ、何人かのイギリスの詩人の詩に触れながら、英詩とは何かを知ってもらうことにあります。																						
授業の内容	<table border="0"> <tr> <td>1. 序論 授業の進め方</td> <td>10.第2章 詩はいかにして生まれたか</td> </tr> <tr> <td>2. 第1章 詩の効用について</td> <td>11.第2章 詩はいかにして生まれたか</td> </tr> <tr> <td>3. 第1章 詩の効用について</td> <td>12. プリント使用</td> </tr> <tr> <td>4. 第1章 詩の効用について</td> <td>13. プリント使用</td> </tr> <tr> <td>5. 第1章 詩の効用について</td> <td>14. プリント使用</td> </tr> <tr> <td>6. プリント使用</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>7. プリント使用</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8. 第2章 詩はいかにして生まれたか</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9. 第2章 詩はいかにして生まれたか</td> <td></td> </tr> </table>					1. 序論 授業の進め方	10.第2章 詩はいかにして生まれたか	2. 第1章 詩の効用について	11.第2章 詩はいかにして生まれたか	3. 第1章 詩の効用について	12. プリント使用	4. 第1章 詩の効用について	13. プリント使用	5. 第1章 詩の効用について	14. プリント使用	6. プリント使用	15. まとめ	7. プリント使用		8. 第2章 詩はいかにして生まれたか		9. 第2章 詩はいかにして生まれたか	
1. 序論 授業の進め方	10.第2章 詩はいかにして生まれたか																						
2. 第1章 詩の効用について	11.第2章 詩はいかにして生まれたか																						
3. 第1章 詩の効用について	12. プリント使用																						
4. 第1章 詩の効用について	13. プリント使用																						
5. 第1章 詩の効用について	14. プリント使用																						
6. プリント使用	15. まとめ																						
7. プリント使用																							
8. 第2章 詩はいかにして生まれたか																							
9. 第2章 詩はいかにして生まれたか																							
評価方法	毎回の出席点(20点)、授業での担当(30点)、定期試験(50点)で評価します。																						
教材・教科書	C. Day Lewis, Poetry for You (詩を読む若い人に) 南雲堂1800円+税 必要に応じてプリントも使用。																						
留意点	事前に1時間から2時間の予習をして置いてください。																						

英語・英米文学科科目

科目名	英詩概論B			担当教員	佐藤 豊																		
対象学年	E1年	単位数・開講学期	2単位・後期	科目コード	E52025																		
概要	[キーワード] 詩とは何か、また詩をどう読むかなどを考えさせる入門書を読みながら、英詩を理解してもらいたいと思います。																						
到達目標	英詩の入門的な概論を英語で書かれたテキストを読みつつ、何人かのイギリスの詩人の詩に触れながら、英詩とは何を知ってもらうことにあります。																						
授業の内容	<table border="0"> <tr> <td>1. 第3章 詩を使っている手段について</td> <td>10.第4章 どのようにして詩は作られるか</td> </tr> <tr> <td>2. 第3章 詩を使っている手段について</td> <td>11.第5章 物語を歌う詩について</td> </tr> <tr> <td>3. 第3章 詩を使っている手段について</td> <td>12.第5章 物語を歌う詩について</td> </tr> <tr> <td>4. 第3章 詩を使っている手段について</td> <td>13.第5章 物語を歌う詩について</td> </tr> <tr> <td>5. 第3章 詩を使っている手段について</td> <td>14. プリント使用</td> </tr> <tr> <td>6. プリント使用</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>7. プリント使用</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8. 第4章 どのようにして詩は作られるか</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9. 第4章 どのようにして詩は作られるか</td> <td></td> </tr> </table>					1. 第3章 詩を使っている手段について	10.第4章 どのようにして詩は作られるか	2. 第3章 詩を使っている手段について	11.第5章 物語を歌う詩について	3. 第3章 詩を使っている手段について	12.第5章 物語を歌う詩について	4. 第3章 詩を使っている手段について	13.第5章 物語を歌う詩について	5. 第3章 詩を使っている手段について	14. プリント使用	6. プリント使用	15. まとめ	7. プリント使用		8. 第4章 どのようにして詩は作られるか		9. 第4章 どのようにして詩は作られるか	
1. 第3章 詩を使っている手段について	10.第4章 どのようにして詩は作られるか																						
2. 第3章 詩を使っている手段について	11.第5章 物語を歌う詩について																						
3. 第3章 詩を使っている手段について	12.第5章 物語を歌う詩について																						
4. 第3章 詩を使っている手段について	13.第5章 物語を歌う詩について																						
5. 第3章 詩を使っている手段について	14. プリント使用																						
6. プリント使用	15. まとめ																						
7. プリント使用																							
8. 第4章 どのようにして詩は作られるか																							
9. 第4章 どのようにして詩は作られるか																							
評価方法	毎回の出席点(20点)、授業での担当(30点)、定期試験(50点)で評価します。																						
教材・教科書	C. Day Lewis, Poetry for You (詩を読む若い人に) 南雲堂1800円+税 必要に応じてプリントも使用。																						
留意点	事前に1時間から2時間の予習をして置いてください。																						

英語・英米文学科科目

科目名	イギリス文学史 A 【2013 年度入学生】		担当教員	佐藤幸正																
対象学年	E1 年	単位数・開講学期	2 単位・前期	科目コード E52054																
概要	〔キーワード：時代・作家・作品〕 古代から擬古典主義時代に至るイギリス文学史の流れを、それぞれの時代の作品に即して概観する。																			
到達目標	それぞれの時代にはどんな特徴があり、どんな作品が生まれたか、また誰がその時代を代表する作家であったか、などを学ぶ。																			
授業の内容	<table border="0"> <tr> <td>1. アングロ・サクソン人の渡英と建国</td> <td>9. <i>Utopia, Authorized Version, Euphues</i></td> </tr> <tr> <td>2. <i>Beowulf, Anglo-Saxon Chronicle</i> について</td> <td>10. Shakespeare 四大悲劇</td> </tr> <tr> <td>3. <i>The Vision of piers</i> と <i>Sir Gawain and the Grene Knight</i> について</td> <td>11. <i>Paradise Lost, Pilgrim's Progress</i></td> </tr> <tr> <td>4. Chaucer と <i>The Canterbury Tales</i></td> <td>12. <i>Absalom and Achitophel</i> その他</td> </tr> <tr> <td>5. Scottish Chaucerians、<i>Le Morte d'Arthur</i> について</td> <td>13. <i>The Rape of the Lock, Gulliver's Travels, Robinson Crusoe</i> について</td> </tr> <tr> <td>6. Renaissance, Elizabeth I, Shakespeare</td> <td>14. <i>The Lives of the English Poets, A Dictionary of English Language, Pamela, Tom Jones, The Castle of Otranto, The Vindication of Rights of Woman, Elegy Written in a Country-yard</i> などについて</td> </tr> <tr> <td>7. <i>Songs and Sonnets, The Faerie Queene</i> について</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. Jacobean poets、Cavalier lylists、Metaphysical poets について</td> <td></td> </tr> </table>				1. アングロ・サクソン人の渡英と建国	9. <i>Utopia, Authorized Version, Euphues</i>	2. <i>Beowulf, Anglo-Saxon Chronicle</i> について	10. Shakespeare 四大悲劇	3. <i>The Vision of piers</i> と <i>Sir Gawain and the Grene Knight</i> について	11. <i>Paradise Lost, Pilgrim's Progress</i>	4. Chaucer と <i>The Canterbury Tales</i>	12. <i>Absalom and Achitophel</i> その他	5. Scottish Chaucerians、 <i>Le Morte d'Arthur</i> について	13. <i>The Rape of the Lock, Gulliver's Travels, Robinson Crusoe</i> について	6. Renaissance, Elizabeth I, Shakespeare	14. <i>The Lives of the English Poets, A Dictionary of English Language, Pamela, Tom Jones, The Castle of Otranto, The Vindication of Rights of Woman, Elegy Written in a Country-yard</i> などについて	7. <i>Songs and Sonnets, The Faerie Queene</i> について	15. まとめ	8. Jacobean poets、Cavalier lylists、Metaphysical poets について	
1. アングロ・サクソン人の渡英と建国	9. <i>Utopia, Authorized Version, Euphues</i>																			
2. <i>Beowulf, Anglo-Saxon Chronicle</i> について	10. Shakespeare 四大悲劇																			
3. <i>The Vision of piers</i> と <i>Sir Gawain and the Grene Knight</i> について	11. <i>Paradise Lost, Pilgrim's Progress</i>																			
4. Chaucer と <i>The Canterbury Tales</i>	12. <i>Absalom and Achitophel</i> その他																			
5. Scottish Chaucerians、 <i>Le Morte d'Arthur</i> について	13. <i>The Rape of the Lock, Gulliver's Travels, Robinson Crusoe</i> について																			
6. Renaissance, Elizabeth I, Shakespeare	14. <i>The Lives of the English Poets, A Dictionary of English Language, Pamela, Tom Jones, The Castle of Otranto, The Vindication of Rights of Woman, Elegy Written in a Country-yard</i> などについて																			
7. <i>Songs and Sonnets, The Faerie Queene</i> について	15. まとめ																			
8. Jacobean poets、Cavalier lylists、Metaphysical poets について																				
評価方法	出席点 (20%)、レポート点 (80%)																			
教材・教科書	荒巻鉄雄・岡地嶺 著 『英文学読本』(開文社) およびプリントを使用																			
留意点	出席を重視																			

英語・英米文学科科目

科目名	英文学史 A		担当教員	佐藤幸正
対象学年	E1 年	単位数・開講学期	2 単位・前期	科目コード E52026
概要	「イギリス文学史 A 【2013 年度入学生】」を参照してください。			
到達目標				
授業の内容				
評価方法				
教材・教科書				
留意点				

英語・英米文学科科目

科目名	イギリス文学史 B 【2013 年度入学生】		担当教員	佐藤幸正	
対象学年	E1 年	単位数・開講学期	2 単位・後期	科目コード	E52055
概要	[キーワード：時代・作家・作品] ロマン主義時代から20世紀に至るイギリス文学史の流れを、それぞれの時代の作品に即して概観する。				
到達目標	それぞれの時代にはどんな特徴があり、どんな作品が生まれたか、また誰がその時代を代表する作家であったか、などを学ぶ。				
授業の内容	1. <i>Lyrical Ballads</i> , “Preface”について 2. <i>Don Juan</i> , <i>Ode to the West Wind</i> , <i>Endymion</i> について 3. <i>Ivanhoe</i> , <i>Pride and Prejudice</i> , <i>Essays of Elia</i> について 4. <i>Enoch Arden</i> , <i>The Charge of the Light Brigade</i> , <i>The Year’s at the Spring</i> について 5. <i>The Ring and the Book</i> , <i>Dover Beach</i> , <i>The Blessed Damozel</i> について 6. <i>The Defence of Guinevere</i> , <i>Tristram of Lyonesse</i> について 7. <i>A Christmas Carol</i> , <i>A Tale of Two Cities</i> 8. <i>Jane Eyre</i> , <i>Wuthering Heights</i> について 9. <i>Isle of Innisfree</i> , <i>The Dynasts</i> について 10. <i>Tess of the D’Urbervilles</i> , <i>Daisy Miller</i> について 11. <i>A Mummer’s Wife</i> , <i>The Happy Prince and Other Tales</i> , <i>Dr. Jekyll and Mr. Hyde</i> , <i>The Old Wives’ Tale</i> について 12. <i>The Apple Tree</i> , <i>Peter Pan</i> , <i>Riders to the Sea</i> , <i>Man and Superman</i> など 13. <i>The Waste Land</i> , <i>The Dubliners</i> など 14. <i>The Garden Party</i> , <i>Lady Chatterley’s Lover</i> について 15. まとめ				
評価方法	出席点 (20%)、レポート点 (80%)				
教材・教科書	荒巻鉄雄・岡地嶺 著 『英文学読本』(開文社) およびプリントを使用				
留意点	出席を重視				

英語・英米文学科科目

科目名	英文学史 B		担当教員	佐藤幸正	
対象学年	E1 年	単位数・開講学期	2 単位・後期	科目コード	E52027
概要	「イギリス文学史 B 【2013 年度入学生】」を参照してください。				
到達目標					
授業の内容					
評価方法					
教材・教科書					
留意点					

英語・英米文学科科目

科目名	アメリカ文学史 A 【2013 年度入学生】		担当教員	佐藤和博																		
対象学年	E1 年	単位数・開講学期	2 単位・前期	科目コード E52056																		
概要	〔キーワード： 多からなる 1 アメリカ文学の主要な作品を、原文で読む〕																					
到達目標	さまざまな作品を速読できる能力を養う																					
授業の内容	<table border="0"> <tr> <td>1. アメリカ人の特質</td> <td>10. ヘミングウェイ (その1)</td> </tr> <tr> <td>2. サリンジャー</td> <td>11. ヘミングウェイ (その2)</td> </tr> <tr> <td>3. カポーティ、マッカラース</td> <td>12. フィッツジェラルド</td> </tr> <tr> <td>4. マラマッド</td> <td>13. ウィリアムズ</td> </tr> <tr> <td>5. リチャード・ライト</td> <td>14. アメリカの現代詩</td> </tr> <tr> <td>6. ミッチェル</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>7. スタインベック、サローヤン</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8. フォークナー (その1)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9. フォークナー (その2)</td> <td></td> </tr> </table>				1. アメリカ人の特質	10. ヘミングウェイ (その1)	2. サリンジャー	11. ヘミングウェイ (その2)	3. カポーティ、マッカラース	12. フィッツジェラルド	4. マラマッド	13. ウィリアムズ	5. リチャード・ライト	14. アメリカの現代詩	6. ミッチェル	15. まとめ	7. スタインベック、サローヤン		8. フォークナー (その1)		9. フォークナー (その2)	
1. アメリカ人の特質	10. ヘミングウェイ (その1)																					
2. サリンジャー	11. ヘミングウェイ (その2)																					
3. カポーティ、マッカラース	12. フィッツジェラルド																					
4. マラマッド	13. ウィリアムズ																					
5. リチャード・ライト	14. アメリカの現代詩																					
6. ミッチェル	15. まとめ																					
7. スタインベック、サローヤン																						
8. フォークナー (その1)																						
9. フォークナー (その2)																						
評価方法	レポート (50%) 及び出席(50%)																					
教材・教科書	『アメリカ文学史』(成美堂) 『アメリカ文学読本』(開文社) 参考書として『アメリカ名詩選』(岩波文庫)																					
留意点																						

英語・英米文学科科目

科目名	米文学史 A		担当教員	佐藤和博
対象学年	E1 年	単位数・開講学期	2 単位・前期	科目コード E52028
概要	「アメリカ文学史 A 【2013 年度入学生】」を参照してください。			
到達目標				
授業の内容				
評価方法				
教材・教科書				
留意点				

英語・英米文学科科目

科目名	アメリカ文学史 B 【2013 年度入学生】		担当教員	佐藤和博																		
対象学年	E1 年	単位数・開講学期	2 単位・後期	科目コード	E52057																	
概要	〔キーワード： 多からなる1 〕 アメリカ文学の主要な作品を、原文で読む																					
到達目標	さまざまな作品を速読できる能力を養う																					
授業の内容	<table border="0"> <tr> <td>1. アンダスン</td> <td>10. ソロー</td> </tr> <tr> <td>2. ドライサー</td> <td>11. エマソン</td> </tr> <tr> <td>3. ロンドン</td> <td>12. ポー</td> </tr> <tr> <td>4. ビアスとオー・ヘンリー</td> <td>13. ホーソー</td> </tr> <tr> <td>5. ジェイムズ</td> <td>14. フランクリン</td> </tr> <tr> <td>6. トウエイン (その1)</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>7. トウエイン (その2)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8. ホイットマンとディキンソン</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9. メルヴィル</td> <td></td> </tr> </table>				1. アンダスン	10. ソロー	2. ドライサー	11. エマソン	3. ロンドン	12. ポー	4. ビアスとオー・ヘンリー	13. ホーソー	5. ジェイムズ	14. フランクリン	6. トウエイン (その1)	15. まとめ	7. トウエイン (その2)		8. ホイットマンとディキンソン		9. メルヴィル	
1. アンダスン	10. ソロー																					
2. ドライサー	11. エマソン																					
3. ロンドン	12. ポー																					
4. ビアスとオー・ヘンリー	13. ホーソー																					
5. ジェイムズ	14. フランクリン																					
6. トウエイン (その1)	15. まとめ																					
7. トウエイン (その2)																						
8. ホイットマンとディキンソン																						
9. メルヴィル																						
評価方法	レポート (50%) 及び出席(50%)																					
教材・教科書	『アメリカ文学史』(成美堂) 『アメリカ文学読本』(開文社) 参考書として『アメリカ名詩選』(岩波文庫)																					
留意点																						

英語・英米文学科科目

科目名	米文学史 B		担当教員	佐藤和博	
対象学年	E1 年	単位数・開講学期	2 単位・後期	科目コード	E52029
概要	「アメリカ文学史 B 【2013 年度入学生】」を参照してください。				
到達目標					
授業の内容					
評価方法					
教材・教科書					
留意点					

英語・英米文学科科目

科目名	シェイクスピア A		担当教員	川浪亜弥子																
対象学年	E2年	単位数・開講学期	2単位・前期	科目コード E52030																
概要	<p>[キーワード：Shakespeare の時代の文化、作品]</p> <p>Shakespeare はイギリスを最も代表する詩人・劇作家です。この授業では、Shakespeare の時代状況を見たり、映画鑑賞や作品の重要箇所を読むことで Shakespeare の作品に触れます。また、ある程度の意味を理解したあとに、実際にセリフを声にだして言うことでより深くシェイクスピアの作品を理解するようにします。</p>																			
到達目標	イギリス文化の中での Shakespeare の位置づけを確認し、Shakespeare の作品をゆっくりと味わうことです。																			
授業の内容	<table border="0"> <tr> <td>1. Introduction</td> <td>9. The Merchant of Venice の鑑賞 6</td> </tr> <tr> <td>2. Shakespeare についての基礎知識 1</td> <td>10. The Merchant of Venice の鑑賞 7</td> </tr> <tr> <td>3. Shakespeare についての基礎知識 2</td> <td>11. The Merchant of Venice の鑑賞 8</td> </tr> <tr> <td>4. The Merchant of Venice の鑑賞 1</td> <td>12. The Merchant of Venice の鑑賞 9</td> </tr> <tr> <td>5. The Merchant of Venice の鑑賞 2</td> <td>13. The Merchant of Venice の鑑賞 10</td> </tr> <tr> <td>6. The Merchant of Venice の鑑賞 3</td> <td>14. The Merchant of Venice の鑑賞 11</td> </tr> <tr> <td>7. The Merchant of Venice の鑑賞 4</td> <td>15. Review</td> </tr> <tr> <td>8. The Merchant of Venice の鑑賞 5</td> <td></td> </tr> </table>				1. Introduction	9. The Merchant of Venice の鑑賞 6	2. Shakespeare についての基礎知識 1	10. The Merchant of Venice の鑑賞 7	3. Shakespeare についての基礎知識 2	11. The Merchant of Venice の鑑賞 8	4. The Merchant of Venice の鑑賞 1	12. The Merchant of Venice の鑑賞 9	5. The Merchant of Venice の鑑賞 2	13. The Merchant of Venice の鑑賞 10	6. The Merchant of Venice の鑑賞 3	14. The Merchant of Venice の鑑賞 11	7. The Merchant of Venice の鑑賞 4	15. Review	8. The Merchant of Venice の鑑賞 5	
1. Introduction	9. The Merchant of Venice の鑑賞 6																			
2. Shakespeare についての基礎知識 1	10. The Merchant of Venice の鑑賞 7																			
3. Shakespeare についての基礎知識 2	11. The Merchant of Venice の鑑賞 8																			
4. The Merchant of Venice の鑑賞 1	12. The Merchant of Venice の鑑賞 9																			
5. The Merchant of Venice の鑑賞 2	13. The Merchant of Venice の鑑賞 10																			
6. The Merchant of Venice の鑑賞 3	14. The Merchant of Venice の鑑賞 11																			
7. The Merchant of Venice の鑑賞 4	15. Review																			
8. The Merchant of Venice の鑑賞 5																				
評価方法	出席 30%・テスト 70%																			
教材・教科書	プリント配布																			
留意点	Shakespeare の英語は古くて難しいというイメージがありますが、授業ではなるべくわかりやすく説明します。																			

英語・英米文学科科目

科目名	シェイクスピア B		担当教員	川浪亜弥子																		
対象学年	E2年	単位数・開講学期	2単位・後期	科目コード E52031																		
概要	<p>[キーワード：Shakespeare の時代の文化、作品]</p> <p>Shakespeare はイギリスを最も代表する詩人・劇作家です。この授業では、Shakespeare の時代状況を見たり、映画鑑賞や作品の重要箇所を読むことで Shakespeare の作品に触れます。また、ある程度の意味を理解したあとに、実際にセリフを声にだして言うことでより深くシェイクスピアの作品を理解するようにします。</p>																					
到達目標	イギリス文化の中での Shakespeare の位置づけを確認し、Shakespeare の作品をゆっくりと味わうことです。																					
授業の内容	<table border="0"> <tr> <td>1. Introduction</td> <td>10. MND の鑑賞 9</td> </tr> <tr> <td>2. A Midsummer Night's Dream の鑑賞 1</td> <td>11. MND の鑑賞 10</td> </tr> <tr> <td>3. MND の鑑賞 2</td> <td>12. MND の鑑賞 11</td> </tr> <tr> <td>4. MND の鑑賞 3</td> <td>14. MND の鑑賞 12</td> </tr> <tr> <td>5. MND の鑑賞 4</td> <td>15. Review</td> </tr> <tr> <td>6. MND の鑑賞 5</td> <td></td> </tr> <tr> <td>7. MND の鑑賞 6</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8. MND の鑑賞 7</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9. MND の鑑賞 8</td> <td></td> </tr> </table>				1. Introduction	10. MND の鑑賞 9	2. A Midsummer Night's Dream の鑑賞 1	11. MND の鑑賞 10	3. MND の鑑賞 2	12. MND の鑑賞 11	4. MND の鑑賞 3	14. MND の鑑賞 12	5. MND の鑑賞 4	15. Review	6. MND の鑑賞 5		7. MND の鑑賞 6		8. MND の鑑賞 7		9. MND の鑑賞 8	
1. Introduction	10. MND の鑑賞 9																					
2. A Midsummer Night's Dream の鑑賞 1	11. MND の鑑賞 10																					
3. MND の鑑賞 2	12. MND の鑑賞 11																					
4. MND の鑑賞 3	14. MND の鑑賞 12																					
5. MND の鑑賞 4	15. Review																					
6. MND の鑑賞 5																						
7. MND の鑑賞 6																						
8. MND の鑑賞 7																						
9. MND の鑑賞 8																						
評価方法	出席 30%・テスト 70%																					
教材・教科書	プリント配布																					
留意点	Shakespeare の英語は古くて難しいというイメージがありますが、授業ではなるべくわかりやすく説明します。																					

英語・英米文学科科目

科目名	アメリカ近代文学A		担当教員	佐藤和博
対象学年	E2年	単位数・開講学期	2単位・前期	科目コード E52034
概要	[キーワード： アメリカの短編] Jack London の短編 “To Build A Fire” を読む			
到達目標	英語の原典を精読出来るようにする			
授業の内容	1. テキストの p.265～p.266 を読む 2. テキストの p.266～p.267 を読む 3. テキストの p.267～p.268 を読む 4. テキストの p.268～p.269 を読む 5. テキストの p.269～p.270 を読む 6. テキストの p.270～p.271 を読む 7. テキストの p.271～p.272 を読む 8. テキストの p.272～p.273 を読む 9. テキストの p.273～p.274 を読む 10. テキストの p.275～p.276 を読む 11. テキストの p.276～p.277 を読む 12. テキストの p.277～p.278 を読む 13. テキストの p.278～p.279 を読む 14. テキストの p.280～p.281 を読む 15.まとめ			
評価方法	レポート (50%) 及び出席(50%)			
教材・教科書	<i>The Penguin Book of American Short Stories</i> (Penguin)			
留意点				

英語・英米文学科科目

科目名	アメリカ近代文学B		担当教員	佐藤和博
対象学年	E2年	単位数・開講学期	2単位・後期	科目コード E52035
概要	[キーワード： アメリカの短編] Sherwood Anderson の “Death in The Woods”を精読する。			
到達目標	英語の原典を精読出来るようにする			
授業の内容	1. テキストの p.282～p.283 を読む 2. テキストの p.283～p.284 を読む 3. テキストの p.284～p.285 を読む 4. テキストの p.285～p.286 を読む 5. テキストの p.286～p.287 を読む 6. テキストの p.287～p.288 を読む 7. テキストの p.288～p.289 を読む 8. テキストの p.289～p.290 を読む 9. テキストの p.290～p.291 を読む 10. テキストの p.291～p.292 を読む 11. テキストの p.292～p.293 を読む 12. テキストの p.293～p.294 を読む 13. テキストについての批評を読む 14. テキストについて論じる 15.まとめ			
評価方法	レポート (50%) 及び出席(50%)			
教材・教科書	<i>The Penguin Book of American Short Stories</i> (Penguin)			
留意点				

英語・英米文学科科目

科目名	イギリス現代文学 A		担当教員	佐藤幸正																		
対象学年	E2年	単位数・開講学期	2単位・前期	科目コード E52036																		
概要	〔キーワード：正確な読み・正確な解釈〕 Oscar Wilde の作品から、いくつか短編を選び、精読する。学生は一定の分量を分担し、順次発表する。																					
到達目標	発表を通じて、正確な発音、正確な解釈、基礎的な文法力の向上を目指す。																					
授業の内容	<table style="width:100%; border:none;"> <tr> <td style="width:50%; border:none;">1. イントロダクション</td> <td style="width:50%; border:none;">10. “The Selfish Giant” 分担発表</td> </tr> <tr> <td style="border:none;">2. “The Happy Prince” 分担発表</td> <td style="border:none;">11. “The Selfish Giant” 分担発表</td> </tr> <tr> <td style="border:none;">3. “The Happy Prince” 分担発表</td> <td style="border:none;">12. “The Selfish Giant” 分担発表</td> </tr> <tr> <td style="border:none;">4. “The Happy Prince” 分担発表</td> <td style="border:none;">13. “The Selfish Giant” 分担発表</td> </tr> <tr> <td style="border:none;">5. “The Happy Prince” 分担発表</td> <td style="border:none;">14. “The Selfish Giant” 分担発表</td> </tr> <tr> <td style="border:none;">6. “The Happy Prince” 分担発表</td> <td style="border:none;">15. まとめ</td> </tr> <tr> <td style="border:none;">7. “The Happy Prince” 分担発表</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="border:none;">8. “The Happy Prince” 分担発表</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="border:none;">9. “The Happy Prince” 分担発表</td> <td></td> </tr> </table>				1. イントロダクション	10. “The Selfish Giant” 分担発表	2. “The Happy Prince” 分担発表	11. “The Selfish Giant” 分担発表	3. “The Happy Prince” 分担発表	12. “The Selfish Giant” 分担発表	4. “The Happy Prince” 分担発表	13. “The Selfish Giant” 分担発表	5. “The Happy Prince” 分担発表	14. “The Selfish Giant” 分担発表	6. “The Happy Prince” 分担発表	15. まとめ	7. “The Happy Prince” 分担発表		8. “The Happy Prince” 分担発表		9. “The Happy Prince” 分担発表	
1. イントロダクション	10. “The Selfish Giant” 分担発表																					
2. “The Happy Prince” 分担発表	11. “The Selfish Giant” 分担発表																					
3. “The Happy Prince” 分担発表	12. “The Selfish Giant” 分担発表																					
4. “The Happy Prince” 分担発表	13. “The Selfish Giant” 分担発表																					
5. “The Happy Prince” 分担発表	14. “The Selfish Giant” 分担発表																					
6. “The Happy Prince” 分担発表	15. まとめ																					
7. “The Happy Prince” 分担発表																						
8. “The Happy Prince” 分担発表																						
9. “The Happy Prince” 分担発表																						
評価方法	出席点（20%）、発表力（10%）、試験（70%）の割合で評価する。																					
教材・教科書	三宅、橋本 編注 Oscar Wilde, <i>The Happy Prince and Other Tales</i> . (英光社)																					
留意点	出席を重視																					

英語・英米文学科科目

科目名	イギリス現代文学 B		担当教員	佐藤幸正																		
対象学年	E2年	単位数・開講学期	2単位・後期	科目コード E52037																		
概要	〔キーワード：正確な読み・正確な解釈〕 Oscar Wilde の作品から、いくつか短編を選び、精読する。学生は一定の分量を分担し、順次発表する。																					
到達目標	発表を通じて、正確な発音、正確な解釈、基礎的な文法力の向上を目指す。																					
授業の内容	<table style="width:100%; border:none;"> <tr> <td style="width:50%; border:none;">1. イントロダクション</td> <td style="width:50%; border:none;">10. “The Devoted Friend” 分担発表</td> </tr> <tr> <td style="border:none;">2. “The Nightingale and the Rose” 分担発表</td> <td style="border:none;">11. “The Devoted Friend” 分担発表</td> </tr> <tr> <td style="border:none;">3. “The Nightingale and the Rose” 分担発表</td> <td style="border:none;">12. “The Devoted Friend” 分担発表</td> </tr> <tr> <td style="border:none;">4. “The Nightingale and the Rose” 分担発表</td> <td style="border:none;">13. “The Devoted Friend” 分担発表</td> </tr> <tr> <td style="border:none;">5. “The Nightingale and the Rose” 分担発表</td> <td style="border:none;">14. “The Devoted Friend” 分担発表</td> </tr> <tr> <td style="border:none;">6. “The Nightingale and the Rose” 分担発表</td> <td style="border:none;">15. まとめ</td> </tr> <tr> <td style="border:none;">7. “The Devoted Friend” 分担発表</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="border:none;">8. “The Devoted Friend” 分担発表</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="border:none;">9. “The Devoted Friend” 分担発表</td> <td></td> </tr> </table>				1. イントロダクション	10. “The Devoted Friend” 分担発表	2. “The Nightingale and the Rose” 分担発表	11. “The Devoted Friend” 分担発表	3. “The Nightingale and the Rose” 分担発表	12. “The Devoted Friend” 分担発表	4. “The Nightingale and the Rose” 分担発表	13. “The Devoted Friend” 分担発表	5. “The Nightingale and the Rose” 分担発表	14. “The Devoted Friend” 分担発表	6. “The Nightingale and the Rose” 分担発表	15. まとめ	7. “The Devoted Friend” 分担発表		8. “The Devoted Friend” 分担発表		9. “The Devoted Friend” 分担発表	
1. イントロダクション	10. “The Devoted Friend” 分担発表																					
2. “The Nightingale and the Rose” 分担発表	11. “The Devoted Friend” 分担発表																					
3. “The Nightingale and the Rose” 分担発表	12. “The Devoted Friend” 分担発表																					
4. “The Nightingale and the Rose” 分担発表	13. “The Devoted Friend” 分担発表																					
5. “The Nightingale and the Rose” 分担発表	14. “The Devoted Friend” 分担発表																					
6. “The Nightingale and the Rose” 分担発表	15. まとめ																					
7. “The Devoted Friend” 分担発表																						
8. “The Devoted Friend” 分担発表																						
9. “The Devoted Friend” 分担発表																						
評価方法	出席点（20%）、発表力（10%）、試験（70%）の割合で評価する。																					
教材・教科書	三宅、橋本 編注 Oscar Wilde, <i>The Happy Prince and Other Tales</i> . (英光社)																					
留意点	出席を重視																					

英語・英米文学科科目

科目名	聖書と文学 A		担当教員	楊尚眞																		
対象学年	E2年	単位数・開講学期	2単位・前期	科目コード E52040																		
概要	〔キーワード：英語聖書 キリスト教英文〕 現代英語聖書と現代のキリスト教の英文を読みながら、文章の内容と意味を理解する。																					
到達目標	英単語、英文法、イデオム等を習得し、英作文や英語会話で使えること。 キリスト教の知識を深め、その知識を自己形成と生活に役立てること。																					
授業の内容	<table border="0"> <tr> <td>1. Psalm95:1-11 / Get rid of the Poison</td> <td>10. Isaiah 61:1-11 / Beauty for ashes</td> </tr> <tr> <td>2. Psalm5:1-12 / Start Clean Each Day</td> <td>11. Psalm37:23-40 / It is not always easy</td> </tr> <tr> <td>3. Romans8:28-39 / The God of Chance</td> <td>12. Peter4:12-5:10 / God's refinishing fire</td> </tr> <tr> <td>4. IKings19:1-21 / Evict that victim mentality</td> <td>13. Jeremiah18:1-11 / Let God change you</td> </tr> <tr> <td>5. Psalm32:1-11 / Forgive for your own sake</td> <td>14. Luke17:11-19 / Find a reason to give God thanks.</td> </tr> <tr> <td>6. Matthew18:21-35 / Tear down the walls</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>7. Galatians6:1-10 / Doing right when it hurts</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8. Isaiah40:28-31 / Keep Trusting</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9. ISamuel16:1-12 / God has another plan</td> <td></td> </tr> </table>				1. Psalm95:1-11 / Get rid of the Poison	10. Isaiah 61:1-11 / Beauty for ashes	2. Psalm5:1-12 / Start Clean Each Day	11. Psalm37:23-40 / It is not always easy	3. Romans8:28-39 / The God of Chance	12. Peter4:12-5:10 / God's refinishing fire	4. IKings19:1-21 / Evict that victim mentality	13. Jeremiah18:1-11 / Let God change you	5. Psalm32:1-11 / Forgive for your own sake	14. Luke17:11-19 / Find a reason to give God thanks.	6. Matthew18:21-35 / Tear down the walls	15. まとめ	7. Galatians6:1-10 / Doing right when it hurts		8. Isaiah40:28-31 / Keep Trusting		9. ISamuel16:1-12 / God has another plan	
1. Psalm95:1-11 / Get rid of the Poison	10. Isaiah 61:1-11 / Beauty for ashes																					
2. Psalm5:1-12 / Start Clean Each Day	11. Psalm37:23-40 / It is not always easy																					
3. Romans8:28-39 / The God of Chance	12. Peter4:12-5:10 / God's refinishing fire																					
4. IKings19:1-21 / Evict that victim mentality	13. Jeremiah18:1-11 / Let God change you																					
5. Psalm32:1-11 / Forgive for your own sake	14. Luke17:11-19 / Find a reason to give God thanks.																					
6. Matthew18:21-35 / Tear down the walls	15. まとめ																					
7. Galatians6:1-10 / Doing right when it hurts																						
8. Isaiah40:28-31 / Keep Trusting																						
9. ISamuel16:1-12 / God has another plan																						
評価方法	1 試験 (50点) 2. 宿題 (25点) 3. 授業参加 (25点)																					
教材・教科書	担当教員が準備する。																					
留意点	1. 私語禁止 2. 遅刻禁止 3. 質問奨励																					

英語・英米文学科科目

科目名	英米文学演習 I A			担当教員	佐藤幸正
対象学年	E3年	単位数・開講学期	2単位・前期	科目コード	E52042
概要	〔キーワード：読解力〕 ヴィクトリア時代を代表する小説家、Dickens の短編小説 “The Poor Relation’s Story” を取り上げ、これを分担して発表しあう。				
到達目標	発表を通じて正しい読み、正しい解釈の向上と、基礎的な文法力の向上を目指す。				
授業の内容	1. イントロダクション 2. The Poor Relation’s Story を分担し発表 3. The Poor Relation’s Story を分担し発表 4. The Poor Relation’s Story を分担し発表 5. The Poor Relation’s Story を分担し発表 6. The Poor Relation’s Story を分担し発表 7. The Poor Relation’s Story を分担し発表 8. The Poor Relation’s Story を分担し発表 9. The Poor Relation’s Story を分担し発表 10. The Poor Relation’s Story を分担し発表 11. The Poor Relation’s Story を分担し発表 12. The Poor Relation’s Story を分担し発表 13. The Poor Relation’s Story を分担し発表 14. The Poor Relation’s Story を分担し発表 15.まとめ				
評価方法	出席点（20%）、発表力（10%）、レポート点（70%）				
教材・教科書	田中英史、横山幸三、佐野英一郎 編注 Classic British Short Stories（成美堂）				
留意点	出席を重視、発表者の無断欠席厳禁				

英語・英米文学科科目

科目名	英米文学演習 I B			担当教員	佐藤幸正
対象学年	E3年	単位数・開講学期	2単位・後期	科目コード	E52043
概要	〔キーワード：読解力〕 ノーベル文学賞作家 Kipling の作品から、短編 “Thrown Away” を取り上げ、これを分担して発表しあう。				
到達目標	発表を通じて正しい読み、正しい解釈の向上と、基礎的な文法力の向上を目指す。				
授業の内容	1. “Thrown Away”を分担し、発表 2. “Thrown Away”を分担し、発表 3. “Thrown Away”を分担し、発表 4. “Thrown Away”を分担し、発表 5. “Thrown Away”を分担し、発表 6. “Thrown Away”を分担し、発表 7. “Thrown Away”を分担し、発表 8. “Thrown Away”を分担し、発表 9. “Thrown Away”を分担し、発表 10. “Thrown Away”を分担し、発表 11. “Thrown Away”を分担し、発表 12. “Thrown Away”を分担し、発表 13. “Thrown Away”を分担し、発表 14. “Thrown Away”を分担し、発表 15. まとめ				
評価方法	出席点（20%）、発表力（10%）、レポート点（70%）				
教材・教科書	田中英史、横山幸三、佐野英一郎 編注 Classic British Short Stories（成美堂）				
留意点	出席を重視、発表者の無断欠席厳禁				

英語・英米文学科科目

科目名	英米文学演習 IC		担当教員	佐藤和博																		
対象学年	E3年	単位数・開講学期	2単位・前期	科目コード E52044																		
概要	〔キーワード： 発表の技術〕 アメリカの文学作品を、各自の興味に応じて読んでもらい、原稿を準備して、発表する。発表を聴いて、妥当な質問ができるよう練習する。																					
到達目標	口頭発表の技術を身につける。 分かりやすいレポートを書く技術を習得する。																					
授業の内容	<table border="0"> <tr> <td>1. 発表の技術について</td> <td>10. 学生の口頭発表 (9回目)</td> </tr> <tr> <td>2. 学生の口頭発表 (1回目)</td> <td>11. 学生の口頭発表 (10回目)</td> </tr> <tr> <td>3. 学生の口頭発表 (2回目)</td> <td>12. 学生の口頭発表 (11回目)</td> </tr> <tr> <td>4. 学生の口頭発表 (3回目)</td> <td>13. 学生の口頭発表 (12回目)</td> </tr> <tr> <td>5. 学生の口頭発表 (4回目)</td> <td>14. 学生の口頭発表 (13回目)</td> </tr> <tr> <td>6. 学生の口頭発表 (5回目)</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>7. 学生の口頭発表 (6回目)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8. 学生の口頭発表 (7回目)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9. 学生の口頭発表 (8回目)</td> <td></td> </tr> </table>				1. 発表の技術について	10. 学生の口頭発表 (9回目)	2. 学生の口頭発表 (1回目)	11. 学生の口頭発表 (10回目)	3. 学生の口頭発表 (2回目)	12. 学生の口頭発表 (11回目)	4. 学生の口頭発表 (3回目)	13. 学生の口頭発表 (12回目)	5. 学生の口頭発表 (4回目)	14. 学生の口頭発表 (13回目)	6. 学生の口頭発表 (5回目)	15. まとめ	7. 学生の口頭発表 (6回目)		8. 学生の口頭発表 (7回目)		9. 学生の口頭発表 (8回目)	
1. 発表の技術について	10. 学生の口頭発表 (9回目)																					
2. 学生の口頭発表 (1回目)	11. 学生の口頭発表 (10回目)																					
3. 学生の口頭発表 (2回目)	12. 学生の口頭発表 (11回目)																					
4. 学生の口頭発表 (3回目)	13. 学生の口頭発表 (12回目)																					
5. 学生の口頭発表 (4回目)	14. 学生の口頭発表 (13回目)																					
6. 学生の口頭発表 (5回目)	15. まとめ																					
7. 学生の口頭発表 (6回目)																						
8. 学生の口頭発表 (7回目)																						
9. 学生の口頭発表 (8回目)																						
評価方法	レポート (50%) 及び出席(50%)																					
教材・教科書																						
留意点	スーツを着用し参加すること																					

英語・英米文学科科目

科目名	英米文学演習 ID		担当教員	佐藤和博																		
対象学年	E3年	単位数・開講学期	2単位・後期	科目コード E52045																		
概要	〔キーワード： 発表の技術〕																					
到達目標	アメリカの文学作品を、各自の興味に応じて読んでもらい、原稿を準備して、発表する。発表を聴いて、妥当な質問ができるよう練習する。																					
授業の内容	<table border="0"> <tr> <td>1. 学生の口頭発表 (1回目)</td> <td>10. 学生の口頭発表 (10回目)</td> </tr> <tr> <td>2. 学生の口頭発表 (2回目)</td> <td>11. 学生の口頭発表 (11回目)</td> </tr> <tr> <td>3. 学生の口頭発表 (3回目)</td> <td>12. 学生の口頭発表 (12回目)</td> </tr> <tr> <td>4. 学生の口頭発表 (4回目)</td> <td>13. 学生の口頭発表 (13回目)</td> </tr> <tr> <td>5. 学生の口頭発表 (5回目)</td> <td>14. 学生の口頭発表 (14回目)</td> </tr> <tr> <td>6. 学生の口頭発表 (6回目)</td> <td>15.まとめ</td> </tr> <tr> <td>7. 学生の口頭発表 (7回目)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8. 学生の口頭発表 (8回目)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9. 学生の口頭発表 (9回目)</td> <td></td> </tr> </table>				1. 学生の口頭発表 (1回目)	10. 学生の口頭発表 (10回目)	2. 学生の口頭発表 (2回目)	11. 学生の口頭発表 (11回目)	3. 学生の口頭発表 (3回目)	12. 学生の口頭発表 (12回目)	4. 学生の口頭発表 (4回目)	13. 学生の口頭発表 (13回目)	5. 学生の口頭発表 (5回目)	14. 学生の口頭発表 (14回目)	6. 学生の口頭発表 (6回目)	15.まとめ	7. 学生の口頭発表 (7回目)		8. 学生の口頭発表 (8回目)		9. 学生の口頭発表 (9回目)	
1. 学生の口頭発表 (1回目)	10. 学生の口頭発表 (10回目)																					
2. 学生の口頭発表 (2回目)	11. 学生の口頭発表 (11回目)																					
3. 学生の口頭発表 (3回目)	12. 学生の口頭発表 (12回目)																					
4. 学生の口頭発表 (4回目)	13. 学生の口頭発表 (13回目)																					
5. 学生の口頭発表 (5回目)	14. 学生の口頭発表 (14回目)																					
6. 学生の口頭発表 (6回目)	15.まとめ																					
7. 学生の口頭発表 (7回目)																						
8. 学生の口頭発表 (8回目)																						
9. 学生の口頭発表 (9回目)																						
評価方法	レポート (50%) 及び出席(50%)																					
教材・教科書																						
留意点	スーツを着用し参加すること																					

英語・英米文学科科目

科目名	英米文学演習 I E			担当教員	渡邊教一
対象学年	E3年	単位数・開講学期	2単位・前期	科目コード	E52046
概要	〔キーワード： 論点の発見と謎の解明 〕 原典を深く味わい、問題意識を高める。分担発表形式で行う。				
到達目標	問題意識を研ぎ澄まして、謎の解明に迫る。				
授業の内容	1. オリエンテーション 2. ハーンを分担発表(1) 3. ハーンを分担発表(2) 4. ハーンを分担発表(3) 5. ハーンを分担発表(4) 6. マンスフィールドを分担発表(1) 7. マンスフィールドを分担発表(2) 8. マンスフィールドを分担発表(3) 9. マンスフィールドを分担発表(4) 10. プリント教材を分担発表(1) 11. プリント教材を分担発表(2) 12. プリント教材を分担発表(3) 13. プリント教材を分担発表(4) 14. プリント教材を分担発表(5) 15. まとめ				
評価方法	出席点(10点)、発表とレポート点(90点)				
教材・教科書	<u>ADOZEN GEM-LIKE STORIES</u> (金星堂) 及びプリント教材				
留意点	欠席回数に注意				

英語・英米文学科科目

科目名	英米文学演習 I F			担当教員	渡邊教一
対象学年	E3年	単位数・開講学期	2単位・後期	科目コード	E52047
概要	〔キーワード： 論点の発見と謎の解明 〕 原典を深く味わい、問題意識を高める。分担発表形式で行う。				
到達目標	問題意識を研ぎ澄まして、謎の解明に迫る。				
授業の内容	1. オリエンテーション 2. モームを分担発表(1) 3. モームを分担発表(2) 4. モームを分担発表(3) 5. モームを分担発表(4) 6. モームを分担発表(5) 7. コールドウエルを分担発表(1) 8. コールドウエルを分担発表(2) 9. コールドウエルを分担発表(3) 10. コールドウエルを分担発表(4) 11. プリント教材を分担発表(1) 12. プリント教材を分担発表(2) 13. プリント教材を分担発表(3) 14. プリント教材を分担発表(4) 15. まとめ				
評価方法	出席点(10点)、発表とレポート点(90点)				
教材・教科書	<u>ADOZEN GEM-LIKE STORIES</u> (金星堂) 及びプリント教材				
留意点	欠席回数に注意				

英語・英米文学科科目

科目名	英米文学演習ⅡA			担当教員	佐藤幸正																		
対象学年	E4年	単位数・開講学期	2単位・前期	科目コード	E52048																		
概要	<p>[キーワード：論点] イギリス文学作品のなかから、各自が自由に選んだ作品を取り上げ、順次発表しあうことになる。各自の発表には毎回、質疑・応答が伴う。</p>																						
到達目標	発表を通じて、論点の発見やその論点の追求の仕方を会得することが目標。																						
授業の内容	<table border="0"> <tr> <td>1. イントロダクション</td> <td>10. 論点発見と追及、質疑・応答 (9)</td> </tr> <tr> <td>2. 論点発見と追及、質疑・応答 (1)</td> <td>11. 論点発見と追及、質疑・応答 (10)</td> </tr> <tr> <td>3. 論点発見と追及、質疑・応答 (2)</td> <td>12. 論点発見と追及、質疑・応答 (11)</td> </tr> <tr> <td>4. 論点発見と追及、質疑・応答 (3)</td> <td>13. 論点発見と追及、質疑・応答 (12)</td> </tr> <tr> <td>5. 論点発見と追及、質疑・応答 (4)</td> <td>14. 論点発見と追及、質疑・応答 (13)</td> </tr> <tr> <td>6. 論点発見と追及、質疑・応答 (5)</td> <td>15.まとめ</td> </tr> <tr> <td>7. 論点発見と追及、質疑・応答 (6)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8. 論点発見と追及、質疑・応答 (7)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9. 論点発見と追及、質疑・応答 (8)</td> <td></td> </tr> </table>					1. イントロダクション	10. 論点発見と追及、質疑・応答 (9)	2. 論点発見と追及、質疑・応答 (1)	11. 論点発見と追及、質疑・応答 (10)	3. 論点発見と追及、質疑・応答 (2)	12. 論点発見と追及、質疑・応答 (11)	4. 論点発見と追及、質疑・応答 (3)	13. 論点発見と追及、質疑・応答 (12)	5. 論点発見と追及、質疑・応答 (4)	14. 論点発見と追及、質疑・応答 (13)	6. 論点発見と追及、質疑・応答 (5)	15.まとめ	7. 論点発見と追及、質疑・応答 (6)		8. 論点発見と追及、質疑・応答 (7)		9. 論点発見と追及、質疑・応答 (8)	
1. イントロダクション	10. 論点発見と追及、質疑・応答 (9)																						
2. 論点発見と追及、質疑・応答 (1)	11. 論点発見と追及、質疑・応答 (10)																						
3. 論点発見と追及、質疑・応答 (2)	12. 論点発見と追及、質疑・応答 (11)																						
4. 論点発見と追及、質疑・応答 (3)	13. 論点発見と追及、質疑・応答 (12)																						
5. 論点発見と追及、質疑・応答 (4)	14. 論点発見と追及、質疑・応答 (13)																						
6. 論点発見と追及、質疑・応答 (5)	15.まとめ																						
7. 論点発見と追及、質疑・応答 (6)																							
8. 論点発見と追及、質疑・応答 (7)																							
9. 論点発見と追及、質疑・応答 (8)																							
評価方法	出席点(20%)、発表力(30%)、レポート点(50%)																						
教材・教科書	各自それぞれの作品や、発表用のプリントを用意する。																						
留意点	出席を重視する。発表者の無断欠席厳禁。																						

英語・英米文学科科目

科目名	英米文学演習ⅡB			担当教員	佐藤幸正																		
対象学年	E4年	単位数・開講学期	2単位・後期	科目コード	E52049																		
概要	<p>[キーワード：論点] イギリス文学作品のなかから、各自が自由に選んだ作品を取り上げ、順次発表しあうことになる。各自の発表には毎回、質疑・応答が伴う。</p>																						
到達目標	発表を通じて、論点の発見やその論点の追求の仕方を会得することが目標。																						
授業の内容	<table border="0"> <tr> <td>1. 論点発見と追及、質疑・応答 (1)</td> <td>10. 論点発見と追及、質疑・応答 (10)</td> </tr> <tr> <td>2. 論点発見と追及、質疑・応答 (2)</td> <td>11. 論点発見と追及、質疑・応答 (11)</td> </tr> <tr> <td>3. 論点発見と追及、質疑・応答 (3)</td> <td>12. 論点発見と追及、質疑・応答 (12)</td> </tr> <tr> <td>4. 論点発見と追及、質疑・応答 (4)</td> <td>13. 論点発見と追及、質疑・応答 (13)</td> </tr> <tr> <td>5. 論点発見と追及、質疑・応答 (5)</td> <td>14. 論点発見と追及、質疑・応答 (14)</td> </tr> <tr> <td>6. 論点発見と追及、質疑・応答 (6)</td> <td>15.まとめ</td> </tr> <tr> <td>7. 論点発見と追及、質疑・応答 (7)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8. 論点発見と追及、質疑・応答 (8)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9. 論点発見と追及、質疑・応答 (9)</td> <td></td> </tr> </table>					1. 論点発見と追及、質疑・応答 (1)	10. 論点発見と追及、質疑・応答 (10)	2. 論点発見と追及、質疑・応答 (2)	11. 論点発見と追及、質疑・応答 (11)	3. 論点発見と追及、質疑・応答 (3)	12. 論点発見と追及、質疑・応答 (12)	4. 論点発見と追及、質疑・応答 (4)	13. 論点発見と追及、質疑・応答 (13)	5. 論点発見と追及、質疑・応答 (5)	14. 論点発見と追及、質疑・応答 (14)	6. 論点発見と追及、質疑・応答 (6)	15.まとめ	7. 論点発見と追及、質疑・応答 (7)		8. 論点発見と追及、質疑・応答 (8)		9. 論点発見と追及、質疑・応答 (9)	
1. 論点発見と追及、質疑・応答 (1)	10. 論点発見と追及、質疑・応答 (10)																						
2. 論点発見と追及、質疑・応答 (2)	11. 論点発見と追及、質疑・応答 (11)																						
3. 論点発見と追及、質疑・応答 (3)	12. 論点発見と追及、質疑・応答 (12)																						
4. 論点発見と追及、質疑・応答 (4)	13. 論点発見と追及、質疑・応答 (13)																						
5. 論点発見と追及、質疑・応答 (5)	14. 論点発見と追及、質疑・応答 (14)																						
6. 論点発見と追及、質疑・応答 (6)	15.まとめ																						
7. 論点発見と追及、質疑・応答 (7)																							
8. 論点発見と追及、質疑・応答 (8)																							
9. 論点発見と追及、質疑・応答 (9)																							
評価方法	出席点(20%)、発表力(30%)、レポート点(50%)																						
教材・教科書	各自それぞれの作品や、発表用のプリントを用意する。																						
留意点	出席を重視する。発表者の無断欠席厳禁。																						

英語・英米文学科科目

科目名	英米文学演習ⅡC		担当教員	佐藤和博
対象学年	E4年	単位数・開講学期	2単位・前期	科目コード E52050
概要	[キーワード： 発表の技術] アメリカの文学作品を、各自の興味に応じて読んでもらい、原稿を準備して、発表する。 発表を聴いて、妥当な質問ができるよう練習する。			
到達目標	作品を読み、何か問題点を見つけ、それに関して発表するための技術を身につける			
授業の内容	1. 発表の技術 2. 学生の口頭発表 (1回目) 3. 学生の口頭発表 (2回目) 4. 学生の口頭発表 (3回目) 5. 学生の口頭発表 (4回目) 6. 学生の口頭発表 (5回目) 7. 学生の口頭発表 (6回目) 8. 学生の口頭発表 (7回目) 9. 学生の口頭発表 (8回目) 10. 学生の口頭発表 (9回目) 11. 学生の口頭発表 (10回目) 12. 学生の口頭発表 (11回目) 13. 学生の口頭発表 (12回目) 14. 学生の口頭発表 (13回目) 15.まとめ			
評価方法	レポート (50%) 及び出席(50%)			
教材・教科書				
留意点	スーツを着用し参加すること			

英語・英米文学科科目

科目名	英米文学演習ⅡD		担当教員	佐藤和博
対象学年	E4年	単位数・開講学期	2単位・後期	科目コード E52051
概要	[キーワード： 発表の技術] アメリカの文学作品を、各自の興味に応じて読んでもらい、原稿を準備して、発表する。 発表を聴いて、妥当な質問ができるよう練習する。			
到達目標	アメリカの文学作品を、各自の興味に応じて読んでもらい、原稿を準備して、発表する。 発表を聴いて、妥当な質問ができるよう練習する。			
授業の内容	1. 学生の口頭発表 (1回目) 2. 学生の口頭発表 (2回目) 3. 学生の口頭発表 (3回目) 4. 学生の口頭発表 (4回目) 5. 学生の口頭発表 (5回目) 6. 学生の口頭発表 (6回目) 7. 学生の口頭発表 (7回目) 8. 学生の口頭発表 (8回目) 9. 学生の口頭発表 (9回目) 10. 学生の口頭発表 (10回目) 11. 学生の口頭発表 (11回目) 12. 学生の口頭発表 (12回目) 13. 学生の口頭発表 (13回目) 14. 学生の口頭発表 (14回目) 15. まとめ			
評価方法	レポート (50%) 及び出席(50%)			
教材・教科書				
留意点	スーツを着用し参加すること			

英語・英米文学科科目

科目名	英米文学演習ⅡE			担当教員	渡邊教一
対象学年	E4年	単位数・開講学期	2単位・前期	科目コード	E52052
概要	〔キーワード：問題意識の掘り下げと謎解き〕 問題点の設定				
到達目標	問題提起の発見と考察を発表し、それを論評する能力を養う。				
授業の内容	1. オリエンテーション 2. プリント教材の説明と議論(1) 3. プリント教材の説明と議論(2) 4. プリント教材の説明と議論(3) 5. プリント教材の説明と議論(4) 6. プリント教材の説明と議論(5) 7. プリント教材の説明と議論(6) 8. プリント教材の説明と議論(7) 9. プリント教材の説明と議論(8) 10. 問題提起の発表と論評(1) 11. 問題提起の発表と論評(2) 12. 問題提起の発表と論評(3) 13. 問題提起の発表と論評(4) 14. 問題提起の発表と論評(5) 15. まとめ				
評価方法	出席点(10点)、発表とレポート点(90点)				
教材・教科書	プリント配布				
留意点	欠席回数に注意				

英語・英米文学科科目

科目名	英米文学演習ⅡF			担当教員	渡邊教一
対象学年	E4年	単位数・開講学期	2単位・後期	科目コード	E52053
概要	〔キーワード：問題意識の掘り下げと謎解き〕 問題点の設定				
到達目標	問題提起の発見と考察を発表し、それを論評する能力を養う。				
授業の内容	1. オリエンテーション 2. プリント教材の説明と議論(1) 3. プリント教材の説明と議論(2) 4. プリント教材の説明と議論(3) 5. プリント教材の説明と議論(4) 6. プリント教材の説明と議論(5) 7. プリント教材の説明と議論(6) 8. 論点の確認と吟味の発表及び論評(1) 9. 論点の確認と吟味の発表及び論評(2) 10. 論点の確認と吟味の発表及び論評(3) 11. 論点の確認と吟味の発表及び論評(4) 12. 全体的総評(1) 13. 全体的総評(2) 14. 全体的総評(3) 15. まとめ				
評価方法	出席点(10点)、発表とレポート点(90点)				
教材・教科書	プリント配布				
留意点	欠席回数に注意				

英語・英米文学科科目

科目名	欧米文化概論 A 【2013 年度入学生】		担当教員	森田猛	
対象学年	E1 年	単位数・開講学期	2 単位・前期	科目コード	E53016
概要	〔キーワード： 欧米文化、文化史〕 文化史的な観点から、欧米文化の諸相を学ぶ。具体的で身近なエピソードから、その背景にある歴史的社会的脈絡について考察する。				
到達目標	欧米文化を学ぶための基礎的な知識、理解をつける。				
授業の内容	1. 欧米「文化」へのまなざし 2. 日本のアニメこみる欧米文化① 3. 日本のアニメこみる欧米文化② 4. 日本のアニメこみる欧米文化③ 5. 高校「世界史」教科書を深読みする① 6. 高校「世界史」教科書を深読みする② 7. 高校「世界史」教科書を深読みする③ 8. 高校「世界史」教科書を深読みする④ 9. 衣食住からみたヨーロッパ文化① 10. 衣食住からみたヨーロッパ文化② 11. 衣食住からみたヨーロッパ文化③ 12. 小説の文化史的考察① 13. 小説の文化史的考察② 14. 小説の文化史的考察③ 15. まとめ				
評価方法	出席 20%、小課題 10%、論述試験 70%				
教材・教科書	教科書は使用しない。プリント等資料を適宜配布する。参考図書は教室で指示。				
留意点	とくになし。				

英語・英米文学科科目

科目名	欧米文化概論 B 【2013 年度入学生】		担当教員	鎌田学	
対象学年	E1 年	単位数・開講学期	2 単位・後期	科目コード	E53017
概要	〔キーワード：西洋美術、美学の諸問題、〕 西洋美術史をたどりながら、「イメージ」「シンボル」「アレゴリー」等の美学概念について解説する。				
到達目標	西洋美術に親しむこと。				
授業の内容	1. ガイダンス 2. 美術史とはなにか 3. 絵を読む 4. 絵を読む② 5. イメージとシンボル 6. シンボルとアレゴリー 7. アトリビュート 8. イコノグラフィーとイコノロジー 9. 社会と美術 10. 社会と美術② 11. 社会と美術③ 12. 美術の諸相 13. ダヴィンチ 14. セザンヌ 15. まとめ				
評価方法	出席 (50%)、レポートおよび期末試験(50%)				
教材・教科書	池上英洋『西洋美術史入門』（ちくまプリマー新書 998 円）				
留意点					

英語・英米文学科科目

科目名	ヨーロッパ史 A		担当教員	森田猛																		
対象学年	E2年	単位数・開講学期	2単位・前期	科目コード E53000																		
概要	<p>〔キーワード： スイス、小国主義 〕</p> <p>中世から近世にかけてのスイス連邦を歴史的に通観し、ヨーロッパ特有の小国主義、多元主義的な社会と文化のありようを学ぶ。講義を聴講したうえで、各自スイスの歴史と文化にかんする自由研究をおこない、その成果を発表、討論する。</p>																					
到達目標	小国主義の立場から、ヨーロッパに対する歴史的な理解を深める。																					
授業の内容	<table border="0"> <tr> <td>1. 導入</td> <td>10. 演習③個人発表</td> </tr> <tr> <td>2. 講義①スイスと近代日本</td> <td>11. 演習④個人発表</td> </tr> <tr> <td>3. 講義②スイスという国</td> <td>12. 演習⑤個人発表</td> </tr> <tr> <td>4. 講義③スイス盟約者団の誕生</td> <td>13. 演習⑥個人発表</td> </tr> <tr> <td>5. 講義④軍事国家スイス</td> <td>14. 演習⑦個人発表</td> </tr> <tr> <td>6. 講義⑤近代国家への道</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>7. 中間発表、小課題提出</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8. 演習①個人発表</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9. 演習②個人発表</td> <td></td> </tr> </table>				1. 導入	10. 演習③個人発表	2. 講義①スイスと近代日本	11. 演習④個人発表	3. 講義②スイスという国	12. 演習⑤個人発表	4. 講義③スイス盟約者団の誕生	13. 演習⑥個人発表	5. 講義④軍事国家スイス	14. 演習⑦個人発表	6. 講義⑤近代国家への道	15. まとめ	7. 中間発表、小課題提出		8. 演習①個人発表		9. 演習②個人発表	
1. 導入	10. 演習③個人発表																					
2. 講義①スイスと近代日本	11. 演習④個人発表																					
3. 講義②スイスという国	12. 演習⑤個人発表																					
4. 講義③スイス盟約者団の誕生	13. 演習⑥個人発表																					
5. 講義④軍事国家スイス	14. 演習⑦個人発表																					
6. 講義⑤近代国家への道	15. まとめ																					
7. 中間発表、小課題提出																						
8. 演習①個人発表																						
9. 演習②個人発表																						
評価方法	平常点（出席、討論参加状況）40%、小課題 10%、レポート 50%																					
教材・教科書	教科書は使用しない。プリント等を適宜配布する。参考図書は教室で指示。																					
留意点	授業形式は、講義と演習の併用。毎回出席をチェックする。																					

英語・英米文学科科目

科目名	ヨーロッパ史 B		担当教員	森田猛																		
対象学年	E2年	単位数・開講学期	2単位・前期	科目コード E53001																		
概要	<p>〔キーワード： イギリス史、近代社会 〕</p> <p>宗教改革から産業革命前夜にいたる近代イギリス史を通観し、その社会的特質について理解を深める。講義を聴講したうえで、各自イギリスの歴史と文化にかんする自由研究をおこない、発表、討論する。</p>																					
到達目標	イギリスの近代社会について、歴史的な理解を深める。																					
授業の内容	<table border="0"> <tr> <td>1. 導入</td> <td>10. 演習③個人発表</td> </tr> <tr> <td>2. 講義①イギリス宗教改革</td> <td>11. 演習④個人発表</td> </tr> <tr> <td>3. 講義②ジェントルマン</td> <td>12. 演習⑤個人発表</td> </tr> <tr> <td>4. 講義③17世紀危機</td> <td>13. 演習⑥個人発表</td> </tr> <tr> <td>5. 講義④商業革命</td> <td>14. 演習⑦個人発表</td> </tr> <tr> <td>6. 講義⑤農業革命</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>7. 中間発表、小課題提出</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8. 演習①個人発表</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9. 演習②個人発表</td> <td></td> </tr> </table>				1. 導入	10. 演習③個人発表	2. 講義①イギリス宗教改革	11. 演習④個人発表	3. 講義②ジェントルマン	12. 演習⑤個人発表	4. 講義③17世紀危機	13. 演習⑥個人発表	5. 講義④商業革命	14. 演習⑦個人発表	6. 講義⑤農業革命	15. まとめ	7. 中間発表、小課題提出		8. 演習①個人発表		9. 演習②個人発表	
1. 導入	10. 演習③個人発表																					
2. 講義①イギリス宗教改革	11. 演習④個人発表																					
3. 講義②ジェントルマン	12. 演習⑤個人発表																					
4. 講義③17世紀危機	13. 演習⑥個人発表																					
5. 講義④商業革命	14. 演習⑦個人発表																					
6. 講義⑤農業革命	15. まとめ																					
7. 中間発表、小課題提出																						
8. 演習①個人発表																						
9. 演習②個人発表																						
評価方法	平常点（出席、討論参加状況）40%、小課題 10%、レポート 50%																					
教材・教科書	教科書は使用しない。プリント等を適宜配布する。参考図書は教室で指示。																					
留意点	授業形式は、講義と演習の併用。毎回出席をチェックする。																					

英語・英米文学科科目

科目名	アメリカ史 A		担当教員	エドワード・フォーサイ																
対象学年	E2年	単位数・開講学期	2単位・前期	科目コード E53002																
概要	〔キーワード: American History] In this course, students will learn about early 20 th Century American History and how it shaped the lives and culture of Americans.																			
到達目標	The course focuses on American history from the late 1800s through the 1950s. Students will be required to perform research projects on a variety of topics of 20 th Century American history and present them in class.																			
授業の内容	<table border="0"> <tr> <td>1. Course Orientation and Teacher Intro</td> <td>9. Student Project Presentations</td> </tr> <tr> <td>2. Late 1800's - 1900</td> <td>10. World War II</td> </tr> <tr> <td>3. 1900 - 1910</td> <td>11. World War II</td> </tr> <tr> <td>4. 1910 - 1920 / World War I</td> <td>12. 1940 - 1950</td> </tr> <tr> <td>5. Student Project Presentations</td> <td>13. 1950 - 1960</td> </tr> <tr> <td>6. 1920 - 1930</td> <td>14. Student Project Presentations</td> </tr> <tr> <td>7. The Great Depression</td> <td>15. Student Project Presentations Review /</td> </tr> <tr> <td>8. 1930 - 1940</td> <td>Course Conclusion</td> </tr> </table>				1. Course Orientation and Teacher Intro	9. Student Project Presentations	2. Late 1800's - 1900	10. World War II	3. 1900 - 1910	11. World War II	4. 1910 - 1920 / World War I	12. 1940 - 1950	5. Student Project Presentations	13. 1950 - 1960	6. 1920 - 1930	14. Student Project Presentations	7. The Great Depression	15. Student Project Presentations Review /	8. 1930 - 1940	Course Conclusion
1. Course Orientation and Teacher Intro	9. Student Project Presentations																			
2. Late 1800's - 1900	10. World War II																			
3. 1900 - 1910	11. World War II																			
4. 1910 - 1920 / World War I	12. 1940 - 1950																			
5. Student Project Presentations	13. 1950 - 1960																			
6. 1920 - 1930	14. Student Project Presentations																			
7. The Great Depression	15. Student Project Presentations Review /																			
8. 1930 - 1940	Course Conclusion																			
評価方法	Participation / Attendance / Homework: 50%; Project Presentations: 50%																			
教材・教科書	There is no required textbook for this course; this course is very technology-based and students will be provided materials to support the lesson topics throughout the course. Students must have access to a computer with Internet access and will need materials to take notes during course topic lectures.																			
留意点	Attendance is required to pass this course. Students missing a Student Project Presentation day may result in a failing grade for the presentation.																			

英語・英米文学科科目

科目名	アメリカ史 B		担当教員	エドワード・フォーサイ																
対象学年	E2年	単位数・開講学期	2単位・後期	科目コード E53003																
概要	〔キーワード: American History] In this course, students will learn about late 20 th Century American History and how it shaped the lives and culture of Americans.																			
到達目標	The course focuses on American history from the late 1960s through the new millennium. Students will be required to perform research projects on a variety of topics of 20 th Century American history and present them in class.																			
授業の内容	<table border="0"> <tr> <td>1. Course Orientation and Teacher Intro</td> <td>9. Student Project Presentations</td> </tr> <tr> <td>2. The 1960's</td> <td>10. 9-11 and its Aftermath</td> </tr> <tr> <td>3. The Cold War</td> <td>11. The Gulf War</td> </tr> <tr> <td>4. 1960 - 1970</td> <td>12. The Technology Revolution</td> </tr> <tr> <td>5. Student Project Presentations</td> <td>13. America in the 21st Century</td> </tr> <tr> <td>6. 1970 - 1980</td> <td>14. Student Project Presentations</td> </tr> <tr> <td>7. 1980 - 1990</td> <td>15. Student Project Presentations Review /</td> </tr> <tr> <td>8. 1990 - 2000</td> <td>Course Conclusion</td> </tr> </table>				1. Course Orientation and Teacher Intro	9. Student Project Presentations	2. The 1960's	10. 9-11 and its Aftermath	3. The Cold War	11. The Gulf War	4. 1960 - 1970	12. The Technology Revolution	5. Student Project Presentations	13. America in the 21 st Century	6. 1970 - 1980	14. Student Project Presentations	7. 1980 - 1990	15. Student Project Presentations Review /	8. 1990 - 2000	Course Conclusion
1. Course Orientation and Teacher Intro	9. Student Project Presentations																			
2. The 1960's	10. 9-11 and its Aftermath																			
3. The Cold War	11. The Gulf War																			
4. 1960 - 1970	12. The Technology Revolution																			
5. Student Project Presentations	13. America in the 21 st Century																			
6. 1970 - 1980	14. Student Project Presentations																			
7. 1980 - 1990	15. Student Project Presentations Review /																			
8. 1990 - 2000	Course Conclusion																			
評価方法	Participation / Attendance / Homework: 50%; Project Presentations: 50%																			
教材・教科書	There is no required textbook for this course. This course is very technology-based and students will be provided materials to support the lesson topics throughout the course. Students must have access to a computer with Internet access and will need materials to take notes during course topic lectures.																			
留意点	Attendance is required to pass this course. Students missing a Student Project Presentation day may result in a failing grade for the presentation.																			

英語・英米文学科科目

科目名	異文化理解 A			担当教員	鎌田学																		
対象学年	E2年	単位数・開講学期	2単位・前期	科目コード	E53006																		
概要	〔キーワード：映画で学ぶ異文化〕 映画作品を手がかりにして外国文化、とりわけ欧米文化を多角的に考える。またあわせて、日本文化との比較を試みる。																						
到達目標	自分が選んだ映画作品について周到にプレゼンを行うこと。																						
授業の内容	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス</td> <td>10. 個人発表、質疑応答⑥</td> </tr> <tr> <td>2. 事例①「風と共に去りぬ」(1939年米国)</td> <td>11. 個人発表、質疑応答⑦</td> </tr> <tr> <td>3. 事例②「リトル・ダンサー」(2000年英国)</td> <td>12. 個人発表、質疑応答⑧</td> </tr> <tr> <td>4. 事例③「父親たちの星条旗」(2006年米国)</td> <td>13. 個人発表、質疑応答⑨</td> </tr> <tr> <td>5. 個人発表、質疑応答</td> <td>14. 個人発表、質疑応答⑩</td> </tr> <tr> <td>6. 個人発表、質疑応答②</td> <td>15.まとめ</td> </tr> <tr> <td>7. 個人発表、質疑応答③</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8. 個人発表、質疑応答④</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9. 個人発表、質疑応答⑤</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス	10. 個人発表、質疑応答⑥	2. 事例①「風と共に去りぬ」(1939年米国)	11. 個人発表、質疑応答⑦	3. 事例②「リトル・ダンサー」(2000年英国)	12. 個人発表、質疑応答⑧	4. 事例③「父親たちの星条旗」(2006年米国)	13. 個人発表、質疑応答⑨	5. 個人発表、質疑応答	14. 個人発表、質疑応答⑩	6. 個人発表、質疑応答②	15.まとめ	7. 個人発表、質疑応答③		8. 個人発表、質疑応答④		9. 個人発表、質疑応答⑤	
1. ガイダンス	10. 個人発表、質疑応答⑥																						
2. 事例①「風と共に去りぬ」(1939年米国)	11. 個人発表、質疑応答⑦																						
3. 事例②「リトル・ダンサー」(2000年英国)	12. 個人発表、質疑応答⑧																						
4. 事例③「父親たちの星条旗」(2006年米国)	13. 個人発表、質疑応答⑨																						
5. 個人発表、質疑応答	14. 個人発表、質疑応答⑩																						
6. 個人発表、質疑応答②	15.まとめ																						
7. 個人発表、質疑応答③																							
8. 個人発表、質疑応答④																							
9. 個人発表、質疑応答⑤																							
評価方法	出席 (50%)、小テストおよびレポート(50%)																						
教材・教科書	用いない。																						
留意点	簡単な英文の和訳が課題として毎週出される。																						

英語・英米文学科科目

科目名	異文化理解 B			担当教員	鎌田学																		
対象学年	E2年	単位数・開講学期	2単位・後期	科目コード	E53007																		
概要	〔キーワード：日本論を英語で読む〕 主に日本人論、日本文化論についての英語論文を大量に読む。新渡戸稲造、オイゲン・ヘリゲル、ルース・ベネディクト、土居健郎の著作から抜粋したテキストである。																						
到達目標	英語を通して日本（人、文化）というものを考える。																						
授業の内容	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス</td> <td>10. The Chrysanthemum and the Sword③</td> </tr> <tr> <td>2. Bushido-The Soul of Japan</td> <td>11. The Anatomy of Dependence</td> </tr> <tr> <td>3. Bushido-The Soul of Japan②</td> <td>12. The Anatomy of Dependence②</td> </tr> <tr> <td>4. Bushido-The Soul of Japan③</td> <td>13. The Anatomy of Dependence③</td> </tr> <tr> <td>5. Zen in the Art of Archery</td> <td>14. The Anatomy of Dependence④</td> </tr> <tr> <td>6. Zen in the Art of Archery②</td> <td>15.まとめ</td> </tr> <tr> <td>7. Zen in the Art of Archery ③</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8. The Chrysanthemum and the Sword</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9. The Chrysanthemum and the Sword②</td> <td></td> </tr> </table>					1. ガイダンス	10. The Chrysanthemum and the Sword③	2. Bushido-The Soul of Japan	11. The Anatomy of Dependence	3. Bushido-The Soul of Japan②	12. The Anatomy of Dependence②	4. Bushido-The Soul of Japan③	13. The Anatomy of Dependence③	5. Zen in the Art of Archery	14. The Anatomy of Dependence④	6. Zen in the Art of Archery②	15.まとめ	7. Zen in the Art of Archery ③		8. The Chrysanthemum and the Sword		9. The Chrysanthemum and the Sword②	
1. ガイダンス	10. The Chrysanthemum and the Sword③																						
2. Bushido-The Soul of Japan	11. The Anatomy of Dependence																						
3. Bushido-The Soul of Japan②	12. The Anatomy of Dependence②																						
4. Bushido-The Soul of Japan③	13. The Anatomy of Dependence③																						
5. Zen in the Art of Archery	14. The Anatomy of Dependence④																						
6. Zen in the Art of Archery②	15.まとめ																						
7. Zen in the Art of Archery ③																							
8. The Chrysanthemum and the Sword																							
9. The Chrysanthemum and the Sword②																							
評価方法	出席 (50%)、小テストおよびレポート(50%)																						
教材・教科書	コピーにて配布																						
留意点	予習が毎週義務付けられる。																						

英語・英米文学科科目

科目名	欧米文化演習 IC			担当教員	森田猛																		
対象学年	E3年	単位数・開講学期	2単位・前期	科目コード	E53010																		
概要	〔キーワード： イギリス文化、イギリス史 〕 イギリス文化にかんするテキストを輪読し、各テーマについて理解を深める。選択したテーマのひとつについて、各自が自由研究をおこない、その内容について発表、討論する。																						
到達目標	イギリス文化について歴史的理解を深める。																						
授業の内容	<table border="0"> <tr> <td>1. 導入</td> <td>10. テキスト輪読⑦ (余暇を楽しむ)</td> </tr> <tr> <td>2. イギリスについて</td> <td>11. テキスト輪読⑧ (都市と田園①)</td> </tr> <tr> <td>3. イギリス文化について</td> <td>12. テキスト輪読⑨ (都市と田園②)</td> </tr> <tr> <td>4. テキスト輪読①(イギリス人とは)</td> <td>13. イギリスの歴史と文化</td> </tr> <tr> <td>5. テキスト輪読②(社会制度のウチとソト)</td> <td>14. イギリスの歴史と文化</td> </tr> <tr> <td>6. テキスト輪読③(暮らしを彩るモノたち①)</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>7. テキスト輪読④(暮らしを彩るモノたち②)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8. テキスト輪読⑤(誇るべき文化遺産)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9. テキスト輪読⑥(青少年と教育システム)</td> <td></td> </tr> </table>					1. 導入	10. テキスト輪読⑦ (余暇を楽しむ)	2. イギリスについて	11. テキスト輪読⑧ (都市と田園①)	3. イギリス文化について	12. テキスト輪読⑨ (都市と田園②)	4. テキスト輪読①(イギリス人とは)	13. イギリスの歴史と文化	5. テキスト輪読②(社会制度のウチとソト)	14. イギリスの歴史と文化	6. テキスト輪読③(暮らしを彩るモノたち①)	15. まとめ	7. テキスト輪読④(暮らしを彩るモノたち②)		8. テキスト輪読⑤(誇るべき文化遺産)		9. テキスト輪読⑥(青少年と教育システム)	
1. 導入	10. テキスト輪読⑦ (余暇を楽しむ)																						
2. イギリスについて	11. テキスト輪読⑧ (都市と田園①)																						
3. イギリス文化について	12. テキスト輪読⑨ (都市と田園②)																						
4. テキスト輪読①(イギリス人とは)	13. イギリスの歴史と文化																						
5. テキスト輪読②(社会制度のウチとソト)	14. イギリスの歴史と文化																						
6. テキスト輪読③(暮らしを彩るモノたち①)	15. まとめ																						
7. テキスト輪読④(暮らしを彩るモノたち②)																							
8. テキスト輪読⑤(誇るべき文化遺産)																							
9. テキスト輪読⑥(青少年と教育システム)																							
評価方法	平常点 (出席、討論参加状況) 40%、小課題 10%、レポート 50%																						
教材・教科書	木村卓ほか編著『イギリス文化 55 のキーワード』ミネルヴァ書房、2009年。																						
留意点	毎回出席をチェックする。																						

英語・英米文学科科目

科目名	欧米文化演習 ID			担当教員	森田猛																		
対象学年	E3年	単位数・開講学期	2単位・後期	科目コード	E53011																		
概要	〔キーワード： 欧米文化、欧米史 〕 イギリス文化を中心とした欧米文化、欧米史について、各自が個別研究テーマを設定し、調査研究する。発表内容について、参加メンバー全員で検討・討論する。																						
到達目標	欧米文化に対する歴史的理解を深め、各自の調査研究能力を向上させる。																						
授業の内容	<table border="0"> <tr> <td>1. 導入</td> <td>10. 個人発表・討論③</td> </tr> <tr> <td>2. 文化史研究の方法①</td> <td>11. 個人発表・討論④</td> </tr> <tr> <td>3. 文化史研究の方法②</td> <td>12. 個人発表・討論⑤</td> </tr> <tr> <td>4. テーマ選定について</td> <td>13. 個人発表・討論⑥</td> </tr> <tr> <td>5. 調査・研究について</td> <td>14. 論文の作成について</td> </tr> <tr> <td>6. 図書館の使い方</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>7. 中間発表、小課題提出</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8. 個人発表・討論①</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9. 個人発表・討論②</td> <td></td> </tr> </table>					1. 導入	10. 個人発表・討論③	2. 文化史研究の方法①	11. 個人発表・討論④	3. 文化史研究の方法②	12. 個人発表・討論⑤	4. テーマ選定について	13. 個人発表・討論⑥	5. 調査・研究について	14. 論文の作成について	6. 図書館の使い方	15. まとめ	7. 中間発表、小課題提出		8. 個人発表・討論①		9. 個人発表・討論②	
1. 導入	10. 個人発表・討論③																						
2. 文化史研究の方法①	11. 個人発表・討論④																						
3. 文化史研究の方法②	12. 個人発表・討論⑤																						
4. テーマ選定について	13. 個人発表・討論⑥																						
5. 調査・研究について	14. 論文の作成について																						
6. 図書館の使い方	15. まとめ																						
7. 中間発表、小課題提出																							
8. 個人発表・討論①																							
9. 個人発表・討論②																							
評価方法	平常点 (出席、討論参加状況) 40%、小課題 10%、レポート 50%																						
教材・教科書	木村卓ほか編著『イギリス文化 55 のキーワード』ミネルヴァ書房、2009年。																						
留意点	毎回出席をチェックする。																						

英語・英米文学科科目

科目名	欧米文化演習ⅡA			担当教員	森田猛																		
対象学年	E4年	単位数・開講学期	2単位・前期	科目コード	E53014																		
概要	〔キーワード： 欧米文化、研究の方法 〕 欧米文化、欧米史（英米に関係することが望ましい）について、各自が研究テーマを設定し、調査研究する。当該テーマにかんする内外の先行研究を探索し、研究史をまとめて、自分の研究を位置づける。																						
到達目標	研究テーマについて、研究史をまとめて、問題の所在を確認する。																						
授業の内容	<table border="0"> <tr> <td>1. 導入</td> <td>10. 個人発表・討論③</td> </tr> <tr> <td>2. 先行研究と問題の所在①</td> <td>11. 個人発表・討論④</td> </tr> <tr> <td>3. 先行研究と問題の所在②</td> <td>12. 個人発表・討論⑤</td> </tr> <tr> <td>4. 研究テーマ選定にかんして</td> <td>13. 個人発表・討論⑥</td> </tr> <tr> <td>5. 資料収集にかんして①</td> <td>14. 個人発表・討論⑦</td> </tr> <tr> <td>6. 資料収集にかんして②</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>7. 中間発表</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8. 個人発表・討論①</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9. 個人発表・討論②</td> <td></td> </tr> </table>					1. 導入	10. 個人発表・討論③	2. 先行研究と問題の所在①	11. 個人発表・討論④	3. 先行研究と問題の所在②	12. 個人発表・討論⑤	4. 研究テーマ選定にかんして	13. 個人発表・討論⑥	5. 資料収集にかんして①	14. 個人発表・討論⑦	6. 資料収集にかんして②	15. まとめ	7. 中間発表		8. 個人発表・討論①		9. 個人発表・討論②	
1. 導入	10. 個人発表・討論③																						
2. 先行研究と問題の所在①	11. 個人発表・討論④																						
3. 先行研究と問題の所在②	12. 個人発表・討論⑤																						
4. 研究テーマ選定にかんして	13. 個人発表・討論⑥																						
5. 資料収集にかんして①	14. 個人発表・討論⑦																						
6. 資料収集にかんして②	15. まとめ																						
7. 中間発表																							
8. 個人発表・討論①																							
9. 個人発表・討論②																							
評価方法	平常点（出席、討論参加状況）50%、レポート50%																						
教材・教科書	教科書は使用しない。プリント等を適宜配布する。																						
留意点	毎回出席をチェックする。																						

英語・英米文学科科目

科目名	欧米文化演習ⅡB			担当教員	森田猛																		
対象学年	E4年	単位数・開講学期	2単位・後期	科目コード	E53015																		
概要	〔キーワード： 欧米文化、評価と展望 〕 各自が設定したテーマにかんして、自由研究をさらに進め、その成果を発表する。その際、自分の研究を第三者的な眼で批判し、評価する。																						
到達目標	自分の研究を「客観的」に位置づけ、評価できるようになること。																						
授業の内容	<table border="0"> <tr> <td>1. 導入</td> <td>10. 研究の長所と短所</td> </tr> <tr> <td>2. 研究の位置づけと評価①</td> <td>11. 個人発表Ⅱ、討論①</td> </tr> <tr> <td>3. 研究の位置づけと評価②</td> <td>12. 個人発表Ⅱ、討論②</td> </tr> <tr> <td>4. 課題と展望</td> <td>13. 個人発表Ⅱ、討論③</td> </tr> <tr> <td>5. 中間発表</td> <td>14. 個人発表Ⅱ、討論④</td> </tr> <tr> <td>6. 個人発表Ⅰ、討論①</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>7. 個人発表Ⅰ、討論②</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8. 個人発表Ⅰ、討論③</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9. 個人発表Ⅰ、討論④</td> <td></td> </tr> </table>					1. 導入	10. 研究の長所と短所	2. 研究の位置づけと評価①	11. 個人発表Ⅱ、討論①	3. 研究の位置づけと評価②	12. 個人発表Ⅱ、討論②	4. 課題と展望	13. 個人発表Ⅱ、討論③	5. 中間発表	14. 個人発表Ⅱ、討論④	6. 個人発表Ⅰ、討論①	15. まとめ	7. 個人発表Ⅰ、討論②		8. 個人発表Ⅰ、討論③		9. 個人発表Ⅰ、討論④	
1. 導入	10. 研究の長所と短所																						
2. 研究の位置づけと評価①	11. 個人発表Ⅱ、討論①																						
3. 研究の位置づけと評価②	12. 個人発表Ⅱ、討論②																						
4. 課題と展望	13. 個人発表Ⅱ、討論③																						
5. 中間発表	14. 個人発表Ⅱ、討論④																						
6. 個人発表Ⅰ、討論①	15. まとめ																						
7. 個人発表Ⅰ、討論②																							
8. 個人発表Ⅰ、討論③																							
9. 個人発表Ⅰ、討論④																							
評価方法	平常点（出席、討論参加状況）50%、レポート50%																						
教材・教科書	教科書は使用しない。プリント等を適宜配布する。																						
留意点	毎回出席をチェックする。																						

英語・英米文学科科目

科目名	卒業論文			担当教員	佐藤幸正
対象学年	E4年	単位数・開講学期	8単位・通年	科目コード	E41401
概要	【キーワード： 論点発見、論点追及】 各自が掴んだ論点を追求し、これを論文形式で文章化し、各章ごとに提出することになる。学生は各自が選んだ作品について、順次研究発表をする。発表用の原稿は発表後に提出する。論文指導はMLAに基づき、グループ指導を一定の割合でおこなう。				
到達目標	各自が大学に提出した論題に基づき、研究・調査した成果を、指導を受けながら所定の形式にまとめることになる。				
授業の内容	1. 論題の選び方と書き方 2. 資料収集の仕方。電子資料の評価の仕方 3. ノートのとり方 4. 草稿の作り方 5. 盗用はなぜいけないのか 6. 著作物のタイトルの付け方 7. 引用文の仕方 8. 章だてとタイトル 9. 典拠の明記の仕方 10. Works Cited の書き方	11. 先行論文研究 12. 先行論文研究 13. 先行論文研究 14. 先行論文研究 15. 先行論文研究 16. 発表とグループ指導 17. 発表とグループ指導 18. 発表とグループ指導 19. 発表とグループ指導 20. 発表とグループ指導	21. 発表とグループ指導 22. 発表とグループ指導 23. 発表とグループ指導 24. 発表とグループ指導 25. 発表とグループ指導 26. 発表とグループ指導 27. 発表とグループ指導 28. 発表とグループ指導 29. 発表とグループ指導 30. 卒論提出		
評価方法	発表（40%）、提出論文（60%）				
教材・教科書	樋口昌幸 訳編 『MLA 英語論文の手引』（北星堂）				
留意点	出席重視、発表者の無断欠席厳禁				

英語・英米文学科科目

科目名	卒業論文			担当教員	佐藤和博
対象学年	E4年	単位数・開講学期	8単位・通年	科目コード	E41402
概要	【キーワード： アイディアを生み出す】				
到達目標	アイディアのある論文を書く技術を身につける				
授業の内容	1. 発表の技術 2. 学生の発表（1回目） 3. 学生の発表（2回目） 4. 学生の発表（3回目） 5. 学生の発表（4回目） 6. 学生の発表（5回目） 7. 学生の発表（6回目） 8. 学生の発表（7回目） 9. 学生の発表（8回目） 10. 学生の発表（9回目）	11. 学生の発表（10回目） 12. 学生の発表（11回目） 13. 学生の発表（12回目） 14. 学生の発表（13回目） 15. 学生の発表（14回目） 16. 学生の発表（15回目） 17. 学生の発表（16回目） 18. 学生の発表（17回目） 19. 学生の発表（18回目） 20. 学生の発表（19回目）	21. 学生の発表（20回目） 22. 学生の発表（21回目） 23. 学生の発表（22回目） 24. 学生の発表（23回目） 25. 学生の発表（24回目） 26. 学生の発表（25回目） 27. 学生の発表（26回目） 28. 学生の発表（27回目） 29. 学生の発表（28回目） 30. 学生の発表（29回目）		
評価方法	卒業論文(70%)及び出席 (30%)				
教材・教科書					
留意点					

英語・英米文学科科目

科目名	卒業論文			担当教員	渡邊教一
対象学年	E4年	単位数・開講学期	8単位・通年	科目コード	E41403
概要	[キーワード：問題意識の掘り下げと謎解き] 問題提起の設定と資料収集				
到達目標	独自の問題提起の発見と考究を通じて所定の書式でその成果をまとめる。				
授業の内容	1.論点発見と資料収集(1) 2.論点発見と資料収集(2) 3.論点発見と資料収集(3) 4.論点発見と資料収集(4) 5.論点発見と資料収集(5) 6.論点発見と資料収集(6) 7.論点発見と資料収集(7) 8.論点発見と資料収集(8) 9.論点発見と資料収集(9) 10.論点発見と資料収集(10)	11.論点発見と資料収集(11) 12.論点発見と資料収集(12) 13.論点発見と資料収集(13) 14.論点発見と資料収集(14) 15.論点発見と資料収集(15) 16.執筆指導(1) 17.執筆指導(2) 18.執筆指導(3) 19.執筆指導(4) 20.執筆指導(5)	21.執筆指導(6) 22.執筆指導(7) 23.執筆指導(8) 24.執筆指導(9) 25.執筆指導(10) 26.執筆指導(11) 27.執筆指導(12) 28.執筆指導(13) 29.概要指導 30.口頭試問		
評価方法	卒業論文の内容(90点)及び口頭試問(10点)				
教材・教科書	『MLA 英語論文の手引き』(北星堂) その他プリント配布				
留意点	早めに独自の構想をじっくり固めること。				

英語・英米文学科科目

科目名	卒業論文			担当教員	吉永直子
対象学年	E4年	単位数・開講学期	8単位・通年	科目コード	E41404
概要	[キーワード：] 授業では研究過程の各段階における成果の報告をする。 ・ 先行研究を読み、それらを適切な方法でまとめる。 ・ 研究課題を明確にあらわす。 ・ 研究課題への答えを導きだすための具体的な方法を考える。 ・ 研究課題に対する答えを導きだす。 ・ 研究成果を適切な方法で書く。				
到達目標	自分の研究テーマにそって研究したことを適切な方法で卒業論文としてまとめる。				
授業の内容	1. オリエンテーション 2. 論文について (1) 3. 論文について (2) 4. 研究計画 5. 個別指導 (1) 6. 個別指導 (2) 7. 個別指導 (3) 8. 個別指導 (4) 9. 発表 1 10. 個別指導 (5)	11. 個別指導 (6) 12. 個別指導 (7) 13. 個別指導 (8) 14. 個別指導 (9) 15. 発表 2 16. 発表 3 17. 個別指導 (10) 18. 個別指導 (11) 19. 個別指導 (12) 20. 個別指導 (13)	21. 発表 4 22. 個別指導 (14) 23. 個別指導 (15) 24. 個別指導 (16) 25. 個別指導 (17) 26. 個別指導 (18) 27. 個別指導 (19) 28. 個別指導 (20) 29. 概要 30. 発表 5		
評価方法	卒業論文 80%、発表 20%				
教材・教科書					
留意点					

英語・英米文学科科目

科目名	卒業論文			担当教員	川浪亜弥子
対象学年	E4年	単位数・開講学期	8単位・通年	科目コード	E41405
概要	〔キーワード： 〕 授業ではまず、トピックのを見つけ方、参考資料のを見つけ方、レポート作成の技術を学びます。その後、各自それぞれのトピックを見つけ、中間発表や教師とのやりとりを経て、レポートを完成させていきます。				
到達目標	独自のトピックを見つけ、独創的なレポートを書きあげることを目指します。				
授業の内容	1 オリエンテーション 2 トピックの絞りこみ 3 トピックの絞りこみ 4 資料のを見つけ方 5 資料のを見つけ方 6 アウトラインの作成 7 アウトラインの作成 8 アウトラインの作成 9 議論点の絞りこみ 10 議論点の絞りこみ	11 各章の構成の仕方 12 各章の構成の仕方 13 引用の仕方 14 引用の仕方 15 参考文献の書き方 16 レポート作成指導と発表 17 レポート作成指導と発表 18 レポート作成指導と発表 19 レポート作成指導と発表 20 レポート作成指導と発表	21 レポート作成指導と発表 22 レポート作成指導と発表 23 レポート作成指導と発表 24 レポート作成指導と発表 25 レポート作成指導と発表 26 レポート作成指導と発表 27 レポート作成指導と発表 28 レポート作成指導と発表 29 レポート作成指導と発表 30 レポート作成指導と発表		
評価方法	発表・レポート100%				
教材・教科書	『MLA 英語論文の手引き』第六版（北星堂）、および配布プリント				
留意点	レポートは一気にできるものではありません。教師と相談しながら、粘り強く少しずつ完成させていきましょう。				

英語・英米文学科科目

科目名	卒業論文			担当教員	エドワード・フォーサイス
対象学年	E4年	単位数・開講学期	8単位・通年	科目コード	E41406
概要	〔キーワード： Thesis Seminar 〕 This graduation thesis seminar will provide students with the tools and steps needed to write their graduation theses. Students will be expected to gather the necessary materials, resources, data and any other relevant documentation needed to research and write an original and viable graduation thesis in accordance with university guidelines.				
到達目標	The 1st term focuses on getting students acclimated to researching and writing their graduation theses. Students will be asked to make presentations to the other seminar members of this class in the form of "progress reports," outlining their research and data. 2 nd term is presenting their research and peer review of other students' papers.				
授業の内容	1. Course Orientation 2. Review Sempai Theses 3. Topic Presentation 4. Using Internet Research 5. Thesis Statements 6. Brainstorming Topics 7. Writing an Outline 8. Students Present Outline 9. Making Bibliographies 10. Taking Notes	11. Discussion of Research 12. Topic Outlines 13. Students' Outlines 14. Citing Sources 15. Summer Break Plans 16. Review of Progress 17. Peer review feedback 18. Creating charts & tables 19. Peer review feedback 20. Complete 1st Draft Due	21. Peer review feedback 22. Students' progress rpts 23. Peer review feedback 24. Final draft revisions 25. Final draft revisions 26. Final draft revisions 27. Final draft revisions 28. Final draft revisions 29. Final draft revisions 30. Thesis Submission		
評価方法	Theses must be written in English based on original research. Students must have their thesis proofread by a native English speaker before turning them in. Final grades are based 10% on presentations/assignments/attendance and 90% on the thesis.				
教材・教科書	<i>Basic Steps to Writing Research Papers</i> , Kluge & Taylor (2007) [ISBN: 978-4-902902-89-1]				
留意点	Students must attend scheduled classes and must submit drafts and work according to the professor's requirements. Students should inform the professor PRIOR to absences whenever possible. Theses must be submitted in accordance with Hirosaki Gakuin University policies and procedures.				